

3R reduce
reuse
recycle **活動推進フォーラム 年次報告書**
ReDuce | ReUse | ReCycle

(2011 年版)



平成 23 年 6 月

3 R活動推進フォーラム

はじめに

3月11日に発生した東日本大震災は、東京電力福島第二原子力発電所による放射能汚染も含め、私たちが予想もしなかった被害をもたらしました。亡くなられた方々のご冥福をお祈り申し上げますとともに、被災された皆様に心からお見舞い申し上げます。被災地の一日も早い復興を祈念しております。

今回の震災から、私たちは多くのことを学ばねばなりません。日頃、循環型社会の形成、あるいは低炭素社会と自然共生社会との統合を謳い、3Rの推進を叫んでまいりましたが、ひとたびこのような震災に遭うと、尊い人命はもちろんのこと、多くの家財を失い、大量の廃棄物を発生させたうえ、海水と放射能によって広大な農地を失うことになります。自然の恩恵である海産物も失います。営々と努力してきた3Rの推進や循環型社会形成の努力も文字通り水泡に帰してしまう事態ともなりかねません。災害はゼロにはできませんが、最小限に止める工夫はできるはずです。これからの本格的な復興への取り組みに向けて、今まで積み上げてきた努力が無に帰すことのないよう、まちづくり、地産地消、資源やエネルギー利用等、持続可能な循環型社会形成の今後のモデルとなるような取り組みの導入が望まれます。

3R活動推進フォーラムでは、前身の全国ごみ減量推進会議の時から、永年、廃棄物の減量化に取り組み、また当フォーラムとなってからは廃棄物の発生抑制（Reduce）、再使用（Reuse）、再生利用（Recycle）の3Rの推進に取り組んでまいりました。

平成22年度には、より多くの自治体会員の参加を得て民間会員との連携・協働を推進し、より効果的・効率的な活動の展開することを目的として、自治体会員の会費の無料化を行いました。この結果、22年度には新たに20県4市にご加入いただきました。今後、未加入自治体の参加を推進するとともに、より幅広く、効果的な3R推進活動を展開して参りますので、よろしくお願い申し上げます。

最後になりますが、本報告書は、平成22年度の3R活動推進フォーラムの活動についてとりまとめたものです。会員の皆様をはじめ3R活動に係る関係各位の今後の業務の参考になれば幸いです。

平成23年6月

3R活動推進フォーラム

専任理事 八木 美雄
(担当)

事務局長 藤本 正

調査部長 藤波 博

事務局員 秋元由美

目 次

	ページ
I 理事会・総会等	1
1 理事会	1
2 総会	2
3 企画・運営委員会	22
II 組織・規約	23
1 役員	23
2 会員	24
3 事務局	24
4 活動推進フォーラム規約	25
5 企画・運営委員会設置要領	27
6 3 R活動推進フォーラムについて	28
III 平成22年度事業概要	32
1 第5回3 R推進全国大会	32
2 3 R促進ポスターコンクール	40
3 循環型社会推進功労者等環境大臣表彰	55
4 3 R推進地方大会後援等の協力	59
5 環境にやさしい買い物キャンペーン	63
6 連携・協働事業等	70
7 広報・普及事業	75
8 会員サービスの充実	77
9 調査研究の実施	78
3 R活動推進フォーラム事務局案内図	79
編集後記	80

I 理事会・総会等

平成 23 年度理事会及び総会は、平成 23 年 4 月 27 日（水）に法曹会館（東京都千代田区霞が関 1・1・1）において開催され、第 1 議案「平成 22 年度事業報告及び収支決算」、第 2 号議案「平成 23 年度事業計画及び収支予算」、第 3 号議案「役員改選」のすべての議案が承認された。また、理事会・総会に先立つ 1 月 12 日に企画・運営委員会を開催し、3 R 活動推進フォーラムの今後の展開について意見交換を行った。

1. 理事会

(1)開会杉戸大作副会長

杉戸大作副会長が開会の挨拶を行い、続いてご来賓の大森恵子環境省廃棄物・リサイクル対策部循環型社会推進室長より挨拶をいただいた。

(2)出席者

理事・監事・顧問 22 名のうち、11 名が出席。10 名の理事・監事・顧問からは委任状の提出。

◇理事・監事・顧問（ ）内は代理

副会長 杉戸 大作 (財)廃棄物研究財団 理事長

専任理事 八木 美雄

理事 片山 幹雄 (財)家電製品協会理事長 (田中 裕二)

理事 北橋 建治 建設副産物リサイクル広報推進会議会長 (加納 敏行)

理事 崎田 裕子 NPO 法人持続可能な社会をつくる元気ネット

理事 末吉 興一 国際東アジア研究センター理事長

理事 西藤 久三 (財)食品産業センター理事長 (下田 貢)

理事 三井 崇裕 (一社)全国清掃事業連合会会長 (山田 貢)

理事 八木 誠 電気事業連合会 (寺岡 謙治)

監事 酒巻 弘三 スチール缶リサイクル協会専務理事

顧問 愛知 和男 (社)全国地区衛生組織連合会会長(神田金弦)

◇環境省廃棄物・リサイクル対策部企画課

大森 恵子 循環型社会推進室長

鳥越 暢茂 循環型社会推進室 室長補佐

皆川 祐哉 循環型社会推進室 循環企画係長

山田 慎 循環型社会推進室

◇事務局

藤本 正 3 R 活動推進フォーラム事務局長

藤波博 (財)廃棄物研究財団調査部長

高林 光治 (財)廃棄物研究財団経理担当部長

(3)議長の選出

事務局の推薦により、杉戸副会長が議長に互選された。

(4)議事

第 1 号議案から第 3 号議案等について審議が進められ、すべての議案は、満場一致で承認された。

なお、第 2 号議案平成 22 年度収支決算については、監事を代表してスチール缶リサイクル協会酒巻弘三専務理事から監査報告が行われた。



第 6 回 3 R 活動推進フォーラム理事会（平成 23 年 4 月 27 日、法曹会館）

2. 総会

(1)開会

武内和彦会長(東京大学教授)が開会の挨拶を行い、続いてご来賓の大森恵子環境省大臣官房廃棄物・リサイクル対策部企画課循環型社会推進室長が、伊藤哲夫環境省大臣官房廃棄物・リサイクル対策部長の挨拶を代読した。

◇武内会長の開会挨拶概要

- ・東日本大震災では、関係者の皆様には大変ご尽力されているが、特に震災廃棄物の規模については日本史上例を見ない。私も何度か現場を見たが、言葉を失うような状況である。
- ・感動したのは、こういう危機の状況にあっても鉄、コンクリート、木材などをきちんと分別するなど 3 R の推進を頭の中にしっかり入れて対応していることである。
- ・私自身思うことは、これまでにやってきた循環型社会を築き上げるという方針は曲げないようにしたい。むしろ、この機会にその方向に社会を向けていくことが、われわれとしてやるべきことだと考える。節電にしても、これまでなかなか進まなかったが、今いろんなところで節電努力されていて、結果的に大きな省エネになっている。これが今までのエネルギー浪費型の生活を見直す原動力になればと思う。
- ・皆様方には、3 R の活動について、震災復興と合わせて引き続き取り組んでいただければと思う。

◇伊藤哲夫環境省大臣官房廃棄物・リサイクル対策部長挨拶概要(大森恵子環境省大臣官房廃棄物・リサイクル対策部企画課循環型社会推進室長代読)

- ・東日本大震災から 1 カ月以上たったが、被災された方、亡くなられた方に、心からお見舞いとお悔やみを申し上げます。環境省としても災害特別対策本部を立ち上げて、発生した廃棄物の処理に係る支援に全力で進めている。このフォーラムの会員である団体、地方自治体の皆様に多大なご協力をいただいております、厚く御礼申し上げます。
- ・3 R 活動推進フォーラムには、循環型社会づくりの取り組みにご協力いただいております、感謝し

ている。環境省では、今年度、新しい取り組みとして、静脈産業の海外展開の支援等を実施することとしている。アジアの途上国では急激な経済発展に伴い廃棄物が深刻な課題となっており、有害廃棄物の不適正処理や不適切なリサイクルによる環境汚染が発生している。こういった課題に政府・自治体・事業者の皆様が連携しながら静脈産業の海外展開を進めていかなければならないと考えている。4月からそのF S調査の公募を行っているので、ご支援をお願いしたい。

- ・国内においてもまだ活用されていない循環資源について循環システムを創出することで、効率的で効果的な地域循環圏をつくろうと考えている。社会システムを変えながら循環型社会と低炭素社会と自然共生社会の統合を達成していくことについて、環境省は様々な取り組みをしているが、国だけでなく、地方公共団体、産業界、N G O ・ N P O、研究機関などの連携・協働が必要不可欠で、特に3 Rの関係団体の堅密なご協力が重要と考えており、環境省としてもフォーラムの活動に大いに期待している。

(2)出席者

104 会員のうち、35 会員が出席。残りの 49 会員からは委任状をいただいた。

◇会員

かながわ 3 R 推進会議

岐阜県

静岡県

川口市

アルミ缶リサイクル協会

(財)家電製品協会

紙製容器包装リサイクル推進協議会

(一社)環境衛生施設維持管理業協会

建設廃棄物協同組合

(NPO)グリーンコンシューマー東京ネット

建設副産物リサイクル広報推進会議

(財)産業廃棄物処理事業振興財団

(NPO)持続可能な社会をつくる元気ネット

(財)食品産業センター

公益社団法人 食品容器環境美化協会

スチール缶リサイクル協会

石油連盟

(公社)全国産業廃棄物連合会

全国生活学校連絡協議会

(一社)全国清掃事業連合会

(社)全国清涼飲料工業会

全国地域婦人団体連絡協議会

(社)全国地区衛生組織連合会

全日本自治団体労働組合

(財)日本環境衛生センター

(社)日本消費生活アドバイザー・コンサルタント協会

日本醤油協会

日本生活協同組合連合会

(一社)日本鉄鋼連盟

(社)日本有機資源協会

(財)廃棄物研究財団

(株)初田製作所

(社)プラスチック処理促進協会

プラスチック容器包装リサイクル推進協議会

P E T ボトルリサイクル推進協議会

◇環境省廃棄物・リサイクル対策部企画課

大森 恵子 循環型社会推進室長

鳥越 暢茂 循環型社会推進室 室長補佐

皆川 祐哉 循環型社会推進室 循環企画係長

山田 慎 循環型社会推進室

◇農林水産省総合食料局

矢花 渉史 食品環境対策室長

◇経済産業省

吉川 尚文 経済産業省産業技術環境局リサイクル推進課総括補佐

◇3R活動推進フォーラム

武内 和彦 副会長(東京大学教授、国連大学副学長)

杉戸 大作 副会長(廃棄物研究財団理事長)

八木 美雄 専任理事

◇事務局

藤本 正 3R活動推進フォーラム事務局長

藤波 博 (財)廃棄物研究財団 調査部長

高林 光治 (財)廃棄物研究財団経理担当部長

(3)議長の選出

事務局の推薦により、武内和彦会長を議長に選出。

(4)議事

第1号議案から第3号議案等について審議が進められ、すべての議案は満場一致で承認された。
なお、第2号議案平成22年度収支決算については、監事を代表してスチール缶リサイクル協会
酒巻弘三専務理事から監査報告が行われた。



第6回総会(平成23年4月27日、法曹会館)

《理事会・総会議案資料》

第1号議案

平成22年度 3R活動推進フォーラム事業報告（案）

I 組織運営

1. 理事会・総会

理事会・総会を平成22年4月28日に法曹会館（東京都千代田区霞が関1-1-1）で開催し、①平成21年度事業報告及び収支決算②平成22年度事業計画及び収支予算③自治体会員の負担金を無料にする規約の一部改正について議決した。

2. 企画・運営委員会

企画・運営委員会を平成23年1月12日に法曹会館（東京都千代田区霞が関1-1-1）で開催し、平成22年度事業報告（案）及び平成23年度事業計画（案）等について検討した。

3. 会員の強化・拡充

自治体会員の負担金を無料にする規約改正を受け、平成22年5月26日付で都道府県・政令指定都市に案内するとともに、環境省が6月25日に開催した全国廃棄物・リサイクル行政主管課長会議で周知していただいた。また、平成23年1月24日開催の全国都道府県及び政令指定都市等環境担当部局長会議資料でもご紹介いただいた。この結果、3月31日現在、都道府県34会員、一般市4会員となり、新規自治体加入は24会員となった。これにより自治体の参加数は34都道府県78市27町3村11一部事務組合となった。なお、民間会員は66会員で、合計会員数は104会員。

※自治体の参加数はかながわ3R推進会議、ごみゼロ社会推進愛知県民会議、大阪府リサイクル社会推進会議、岡山県ごみゼロ社会プロジェクト推進会議の各参加自治体と自治体会員を合算したもの）

II 3R推進全国大会関連事業

1. 第5回3R推進全国大会の開催

「第5回3R推進全国大会（以下「3R全国大会」という。）」を平成22年11月2日（火）～7日（日）に佐賀市内で開催した。開催に当たっては、環境省と開催地の佐賀県、佐賀市、九州地方環境事務所、開催地関係団体及び3Rフォーラム等で構成する実行委員会において具体的な企画・運営を行った。

（1）大会式典

□開催日：平成22年11月2日（火）

□会場：グランデはがくれ2階フラワーホール

□入場者数：約400名

□プログラム

- ・主催者挨拶 樋高剛環境大臣政務官 古川康佐賀県知事 秀島敏行佐賀市長
来賓挨拶 留守茂幸佐賀県議会議長
- ・表彰式 循環型社会形成推進功労者等環境大臣表彰 36名
3R促進ポスターコンクール表彰 最優秀作品 3点
- ・特別講演 「3Rが拓く地域の未来～資源循環と自然共生を目指して～」
武内和彦・3R活動推進フォーラム会長
- ・記念講演 「わたしのおすすめ身近なエコ」 タレント 乾貴美子さん
- ・大会宣言 佐賀市立神野小学校環境委員会の皆さん
- ・次回開催地挨拶 坪内俊明京都市環境政策局長
- ・挨拶 古谷宏第5回3R推進全国大会実行委員長

(2) さが環境展

- 開催日：平成 22 年 11 月 3 日（水）～11 月 7 日（日）
- 会場：嘉瀬川河川敷・佐賀インターナショナルバルーンフェスタいこいの広場内
- 入場者数：50,771 名
- オープニングセレモニー
 - ・11 月 3 日 8：40～9：00
 - ・主催者挨拶 伊藤哲夫環境省廃棄物・リサイクル対策部長、古賀盛夫佐賀市副市長
 - ・アトラクション 佐賀県警音楽隊
 - ・テープカット 伊藤哲夫環境省廃棄物・リサイクル対策部長
古賀盛夫佐賀市副市長
神田修二環境省九州地方環境事務所長
古谷宏佐賀県くらし環境本部長
武内和彦 3 R 活動推進フォーラム会長
島内正彦佐賀県商工会議所連合会専務理事
石丸博社団法人佐賀県産業廃棄物協会会長
東島美恵子佐賀県消費者グループ協議会会長
石崎方規特定非営利活動法人佐賀県 C S O 推進機構
橋本辰夫佐賀県地球温暖化防止活動推進センター センター長
脇山行人佐賀県「ストップ温暖化」県民運動推進会議専務局長

□出展

- ・3 R 活動推進フォーラム・(財)廃棄物研究財団共同で 1 ブース出展
- ・平成 22 年度 3 R 促進ポスターコンクール作品展示で 1 ブース設置

(3) その他大会関連イベント

- ・環境省中央環境審議会循環型社会計画部会地域ブロックヒアリング
11 月 3 日（水）13：00～15：00 会場：アバンセ
- ・ステージイベント（白井貴子ほか）
- ・環境寺小屋塾 11 月 3 日（水）～7 日（日） ほか

2. 平成 22 年度 3R 促進ポスターコンクールの実施

環境省と 3 R フォーラムは平成 22 年度 3 R 促進ポスターコンクールを以下の通り実施した。

- 募集期間 平成 22 年 4 月 1 日（木）～9 月 13 日（月）
- 応募数

小学校低学年の部	1,559 点
小学校高学年の部	3,716 点
中学校の部	3,098 点
合 計	8,931 点
- 選考
 - ・第一次審査委員会 平成 22 年 9 月 27 日（月）(財)廃棄物研究財団会議室
 - ・第二次審査委員会 平成 22 年 10 月 6 日（水）法曹会館寿の間
- 入賞 各部門で最優秀賞 1 点、優秀賞 5 点、佳作 15 点、計 63 点を選定
- 表彰 平成 22 年 11 月 2 日開催の第 5 回 3 R 推進全国大会式典で最優秀賞 3 名を表彰するとともに、その他の入賞者には賞状を直接送付した。表彰状は、入賞者自身の作品入り。

3. 循環型社会形成推進功労者等環境大臣表彰の推薦

平成 18 年度より行っている循環型社会形成推進功労者等環境大臣表彰の推薦者として、会員における循環型社会の形成について顕著な成果を上げている個人、企業又は団体について、フォーラムから循環型社会形成推進功労表彰の対象者として環境省に対して推薦を行った。

平成 22 年度の 3 R フォーラムからの推薦数は、企業 12 件、個人 3 件、合計 15 件で、このうち企業 6 件、個人 3 件が受賞となった。

表彰式は、第5回3R推進全国大会式典の席で行われ、全体で20企業、9団体、7個人が受賞した。

【3Rフォーラム推薦の受賞者】

＜企業＞ 前田建設工業株式会社、株式会社ガイアートT・K白岡合材工場、泰和株式会社、日本コカ・コーラ株式会社、日本国土開発株式会社、株式会社間組、

＜個人＞ 大坪隆治（福岡県）、藤野賢吉（愛知県）、吉成一（栃木県）

Ⅲ 「環境にやさしい買い物キャンペーン」関連事業

消費者、事業者（主として流通業）、行政、消費者団体、NPO等の連携による地域活動を推進し、国民に環境に配慮した消費行動を促すことにより、地域レベルでの循環型社会の形成を図ることを目的に、環境省、経済産業省と連携し都道府県、流通事業者等の参加を得て、全国で消費者に買い物袋の持参、環境配慮型商品の購入等と呼びかけた。

この結果、全国で、自治体の参加は46都道府県、流通事業者は51社45,370店舗が参加（環境省まとめ）した。

同キャンペーンに関連して 当フォーラムでは、平成21年度3R促進ポスターコンクール入賞作品を使用したマイ・バッグ・キャンペーン用ポスター3点をデザインし、希望者にデータで提供した。

また、環境省が作成した「平成22年度環境にやさしい買い物キャンペーン実施報告書」を会員に配布した。

Ⅳ 連携・協働事業

1. 3Rフォーラムの開催

会員団体と連携・協働してセミナーなど3Rフォーラムを開催した。

（1）地域連携リユースセミナー

- 共 催 NPO法人持続可能な社会をつくる元気ネット
- テーマ 全国の地域リユース先進事例に学ぶ
- 開催日 平成22年7月5日（月）13：00～17：00
- 会 場 千代田区立内幸町ホール
- 内 容
 - ・基調講演
環境省大臣官房廃棄物・リサイクル対策部リサイクル推進室長 上田康治氏
 - ・活動報告
東北びん商連合会専務理事 大日方輝育氏
地球人間環境フォーラムグローバルネット編集長 平野喬氏
WE21ジャパン政策提言部会 郡司真弓氏
地域環境デザイン研究所 太田航平氏
東京都環境局廃棄物対策部資源循環推進課 榊原元秋氏
- 参加者 120名

（2）3R・循環フォーラム in 埼玉

- 共 催 埼玉県
- テーマ 地域から考える3R・循環型社会
- 開催日 平成22年10月18日（月）13：00～17：00
- 会 場 さいたま市ソニック市民ホール
- 内 容
 - ・基調講演

環境省廃棄物・リサイクル対策部循環型社会推進室長 大森恵子氏
NOP 法人持続可能な社会をつくる元気ネット理事長 崎田裕子氏

・第1分科会（一般廃棄物）

（ファシリテーター）ダイナックス都市環境研究所長 山本耕平氏
（話題提供者）

宇都宮市環境部廃棄物対策課長 釜井孝夫氏

横浜市資源循環局総務部資源政策課長 河井一広氏

京都市環境政策局循環型社会推進部循環企画課担当課長 堀 寛明氏

・第2分科会（産業廃棄物）

（ファシリテーター）BUN環境課題研修事務所主宰 長岡文明氏
（話題提供者）

佐藤泉法律事務所弁護士 佐藤 泉氏

社団法人全国産業廃棄物連合会 加藤宣行氏

白井エコセンター（株）滝口千明氏

□参加者 97名

（3）第21回廃棄物資源学会研究発表会企画セッション

□共 催 一般社団法人廃棄物資源循環学会・（財）廃棄物研究財団

□テーマ 日本の3R体験を国際貢献に生かすために

□開催日 平成22年11月6日（土）9:00～10:30

□会 場 金沢市文化ホール3F 第5,6会議室

□講 師 （財）廃棄物研究財団専務理事 八木美雄氏

日本貿易振興機構アジア経済研究所研究員 小島道一氏

北九州市立大学教授 松本亨氏

（財）廃棄物研究財団技術担当部長 藤井重雄氏

□参加者 50名

（4）3R・循環セミナー

□共 催 （財）廃棄物研究財団

□テーマ 日本の3R体験～海外に何を伝えるか～

□開催日 平成23年2月18日（金）13:30～16:00

□会 場 都道府県会館402号室

□内 容

・第1部 研究成果発表

（財）廃棄物研究財団専務理事 八木美雄氏

早稲田大学客員教授 溝入 茂氏

稲村技術士事務所代表 稲村光郎氏

（財）日本環境衛生センター理事 大澤正明氏

（株）ダイナックス都市環境研究所所長 山本耕平氏

・第2部 パネルディスカッション

司会 （財）廃棄物研究財団専務理理事 八木美雄氏

パネラー 早稲田大学客員教授 溝入 茂氏

稲村技術士事務所代表 稲村光郎氏

（財）日本環境衛生センター理事 大澤正明氏

（株）ダイナックス都市環境研究所所長 山本耕平氏

□参加者 66名

2. 3R推進地方大会への協力

地方環境事務所が中心となって開催する3R推進地方大会に対して後援等の協力を行うとともに、積極的にPRした。

- (1) 3R推進北海道大会 2010
平成22年10月17日(日) 札幌市内
- (2) もったいない・あおもり3R推進弘前大会
平成22年11月6日(土) 青森県弘前市内
- (3) 第5回3R推進関東大会 in さいたま
平成22年10月23日(土)～24日(日) さいたま市内
- (4) 平成22年度3R推進中部地方大会
平成22年10月2日(土)～10月3日(日) 岐阜市内
- (5) 平成22年度3R推進近畿ブロック大会
平成22年10月～平成23年2月 近畿地方一円
- (6) ①平成22年度3R推進中国地方大会 in 倉敷
平成22年10月10日(日) 倉敷市内
②平成22年度3R推進中国地方大会 in 米子
平成22年10月24日(日) 米子市内
- (7) 平成22年度3R推進四国地方大会
平成22年10月23日(土)～24日(日) 高知市内
- (8) 平成22年度3R推進九州ブロック大会
平成22年11月13日(土)～14日(日) 鹿児島市内

3. その他の後援・協賛等

- (1) 後援
 - ①第4回小・中学校における環境教育推進支援事業
スチール缶リサイクル協会主催 募集期間：平成22年6月1日～10月31日
 - ②第8回全国大学生環境活動コンテスト
3全国大学生環境活動コンテスト実行委員会主催
平成22年12月26日(日)～27日(月) 立正大学大崎キャンパス
 - ③2010建設リサイクル技術発表会・技術展示会
建設副産物リサイクル広報推進会議主催 平成22年10月20日(水)
サンポート高松
 - ④第5回答器包装3R推進フォーラム in さいたま
3R推進団体連絡会主催 平成22年10月25日(月)～26日(火) 埼玉会館
 - ⑤建設副産物リサイクル広報ポスター
建設副産物リサイクル広報推進会議主催
掲出期間：平成22年10月1日～平成23年9月30日
- (2) 協賛
 - ①平成22年度「環境衛生週間」
環境省、都道府県及び市町村主唱
平成21年9月24日～10月1日(9月24日清掃の日、10月1日浄化槽の日)
 - ②第9回「産業廃棄物と環境を考える全国大会」
(社)全国産業廃棄物連合会・(財)日本産業廃棄物処理振興センター・(財)産業廃棄物処理事業振興財団主催 平成22年11月17日(水) 富山国際会議場
 - ③平成22年度東海三県一市グリーン購入キャンペーン

東海三県一市グリーン購入キャンペーン実行委員会主催

平成 23 年 1 月 15 日（土）～2 月 14 日（月）

（3）協力

①平成 22 年度「全国ごみ不法投棄監視ウィーク」 5 月 30 日（日）～6 月 5 日（土）

環境省廃棄物・リサイクル対策部適正処理・不法投棄対策室主催

②地球いきもの EXPOin もりころパーク

愛媛県環境部環境活動推進課主催 10 月 9 日～24 日の土・日

③第 3 回 3 R 検定

3 R 検定実行委員会主催 平成 23 年 1 月 9 日（日）

試験会場：東北・関東・中部・北陸・京都・大阪・兵庫・九州

（4）講師等派遣

①平成 22 年度廃棄物研究財団年次報告会講師

（財）廃棄物研究財団主催 平成 22 年 9 月 28 日（火） 江戸博物館

②3 R 検定講習会講師

3 R 検定実行委員会主催 平成 22 年 11 月 21 日（東京電力電気の資料館）・27 日（（財）廃棄物研究財団）、12 月 2 日（（財）廃棄物研究財団）

③あしたのまち・くらしづくり全国フォーラム・「容器包装の削減」分科会講師

（財）あしたの日本を創る協会・全国生活学校連絡協議会等主催

平成 22 年 11 月 16 日 国立オリンピック記念青少年総合センター

④平成 22 年度東海 3 県 1 市グリーン購入キャンペーン説明会講師

東海 3 県 1 市グリーン購入キャンペーン実行委員会主催 平成 22 年 12 月 22 日

名古屋市役所

⑤3 R 検定試験役員

3 R 検定実行委員会主催 平成 21 年 1 月 9 日 立正大学

⑥環境教育推進支援事業審査会委員

スチール缶リサイクル協会主催

平成 22 年 12 月 24 日 スチール缶リサイクル協会

（5）参加

散乱防止美化キャンペーン

スチール缶リサイクル協会主催 平成 22 年 9 月 4 日 愛媛県松山市内

平成 22 年 11 月 6 日 茨城県水戸市内

V 広報普及活動

1. 展示会への出展

（1）エコライフ・フェア 2010

開催日：平成 22 年 6 月 5 日（土）～6 日（日）

会 場：都立代々木公園

来場者：69,982 人

ブース来場者：450 人（クイズ解答者数）

（2）さが環境展

開催日：平成 22 年 11 月 3 日（水）～11 月 7 日（日）

会 場：佐賀市嘉瀬川河川敷・佐賀インターナショナルバルーンフェスタ会場内

来場者：50,771 人

2. インターネットを活用した情報発信

（1）ホームページの刷新

当フォーラムが事務所を置く(財)廃棄物研究財団のホームページ刷新及びネットワーク再構築に伴い、平成 22 年 5 月から当フォーラムホームページを刷新し、充実を図った。

(2) メルマガ「3 R・廃棄物ニュース」の配信

関係省庁、都道府県、政令指定都市、会員団体等の情報を月 3 回配信した。

(3) 3 R 活動推進フォーラム事務局通信の配信

会員向けに事務局の業務を中心にレポート、事務局通信として 8 月から 5 回配信した。

3. 出版物の発行

(1) 2010 年次報告書作成

3 R 活動推進フォーラムの平成 21 年度の事業を中心に報告書を作成し、会員、都道府県等関係先に配布した。

(2) 「財団・3 R だより」の発行

「財団・3 R だより」を 2010 年 7 月号、会員特集号(2010 年 12 月)、2011 年 1 月号の 3 回発行し、会員に送付した。

(3) 3 R 先進事例集～平成 22 年度循環型社会形成推進功労者等環境大臣表彰受賞者の取組み～発行

環境省の 3 R 推進事業支援業務として 3 R 先進事例集を作成し、都道府県等に送付した。

(4) 3 R 先進事例集概要版～平成 22 年度循環型社会形成推進功労者等環境大臣表彰受賞者の取組み～発行

環境省の 3 R 推進事業支援業務として 3 R 先進事例集概要版を作成し、都道府県等に送付した。

4. 新聞・雑誌等における記事・広告掲載等

(1) ラジオ放送

エフエム愛知 平成 22 年 9 月 1 日 14:10～14:15 Let's エコメンド ON AIR
3 R についての電話インタビューに対応

(2) 記事

①環境新聞 平成 22 年 10 月 27 日 12 面 第 5 回 3 R 推進全国大会特集

②ウェスト マネジメント

平成 22 年 5 月 25 日 3 面 八木専任理事インタビュー

平成 22 年 10 月 25 日 4 面 第 5 回 3 R 推進全国大会特集

③月刊廃棄物 平成 22 年 9 月号 「リユースで地域の仕組みづくりを」 3 ページ掲載

平成 22 年 11 月号 64 ページ「3 R・循環フォーラム in 埼玉」

④環境情報 平成 23 年 1 月 1 日 杉戸副会長年頭所感

(3) 広告

①環境新聞 平成 22 年 10 月 27 日 12 面記事下 5 段 1/2

平成 23 年 1 月 1 日名刺広告

②ウェスト・マネジメント

平成 22 年 5 月 25 日 3 面記事下 5 段 1/2

平成 22 年 10 月 25 日 4 面記事下集合広告

5. ガイドラインに沿った R マーク表示の普及推進

3 R 活動推進フォーラムでは、前身のごみ減量化推進国民会議が平成 7 年 6 月設定した再生紙使用マーク(R マーク)について、平成 20 年 1 月に環境省が策定した環境表示ガイドラインに則った適正な R マークの表示方法等の周知を図った。

(1) 平成 22 年度東海 3 県 1 市グリーン購入キャンペーン説明会で説明

平成 22 年 12 月 22 日に名古屋市役所で行われた東海 3 県 1 市グリーン購入キャンペーン実行委員会主催のキャンペーン説明会において、R マークについて説明した。

(2) 展示会でのパネル展示

エコ・ライフフェア 2010 及びさが環境展（いずれも前掲）で R マークのパネルを展示した。

(3) 問い合わせに対応

R マークについて、掲載方法や掲載物等に関する電話などでの問い合わせや、教材などへの掲載方法についての問い合わせなどに対応した。

VI 会員サービスの充実

1. 情報の発信・共有化

(1) 「財団・3R だより」会員特集号の発行

「財団・3R だより」会員特集号を 12 月に発行し、自治体会員の取り組み、民間会員の紹介広告（無料）を掲載した。

(2) 会員のイベント情報等をメルマガで配信

月 3 回配信しているメルマガ「3R・廃棄物ニュース」に会員のイベント情報等を毎回掲載した。

(3) 3R 活動推進フォーラム事務局通信の配信

8 月から 5 回、事業の進捗状況や事務局の状況を会員に報告する事務局通信をメール配信した。

(4) ホームページに会員ページを設置

5 月からスタートした新しいホームページに会員ページを設置して、会員向け情報を掲載した。

2. 出版物の配布（前掲）

「財団・3R だより」、2010 年次報告書、3R 先進事例集等の出版物を会員に配布した。

3. 3Rグッズ等の配布

(1) 2011 年カレンダーの配布

平成 22 年度 3R 促進ポスターコンクール最優秀作品をデザインした 2011 年のカレンダー（A1 判）を無料配布した。

(2) マイ・バッグ・キャンペーン用ポスターデータの配布

平成 21 年度 3R 促進ポスターコンクール入賞作品をデザインしたマイ・バッグ・キャンペーン用ポスター 3 種のデータを作成、10 月の 3R 推進月間を中心に希望者に無料で配布した。

VII 調査研究の実施

1. 「アジア諸国等への日本の 3R 体験の移転促進に関する研究」への協力

アジア諸国等の経済レベルに見合った日本の 3R 体験情報の提供を目指し、日本における昭和 30 年代以降の高度経済成長から現在に至るまでの 3R に係る制度・技術・経験を時系列的に明らかにするために(財)廃棄物研究財団が実施した「アジア諸国等への日本の 3R 体験の移転促進に関する研究」に協力した。

2. 3R・廃棄物の電子契約のあり方研究への協力

廃棄物処理・リサイクル等の委託契約を電子化することの有効性や課題について検証する(財)廃棄物研究財団の「3R・廃棄物の電子契約のあり方研究」に協力した。

平成22年度 収支決算(案)

自 平成22年4月 1日
至 平成23年3月31日

1 収入の部

(単位:円)

科 目	予算額	決算額	差引額	
1 利 息 収 入	2,000	1,279	△ 721	
2 会 費 収 入	5,500,000	5,100,000	△ 400,000	
3 事 業 収 入	8,000,000	7,722,150	△ 277,850	
当 期 収 入 合 計	13,502,000	12,823,429	△ 678,571	
前 期 繰 越 収 支 差 額	△ 3,261,933	△ 3,261,933	0	
収 入 合 計	10,240,067	9,561,496	△ 678,571	

2 支出の部

科 目	予算額	決算額	差引額	
1 事 業 費	9,100,000	5,230,751	△ 3,869,249	
(1) 全 国 大 会	4,100,000	3,740,384	△ 359,616	
(2) 普 及 啓 発 費	4,000,000	1,490,367	△ 2,509,633	
(3) 調 査 事 業 費	1,000,000	0	△ 1,000,000	
2 管 理 費	4,000,000	2,855,961	△ 1,144,039	
3 予 備 費	200,000	0	△ 200,000	
当 期 支 出 合 計	13,300,000	8,086,712	△ 5,213,288	
当 期 収 支 差 額	202,000	4,736,717	4,534,717	
次 期 繰 越 収 支 差 額	△ 3,059,933	1,474,784	4,534,717	

[備 考]

1. 3R活動推進フォーラムは、任意団体であるため、3R関連事業に係る環境省からの受託事業は事務局を務める(財)廃棄物研究財団が受託する。
2. (財)廃棄物研究財団が環境省から受託した3R事業収入の内、3割相当を(財)廃棄物研究財団の必要経費に充当し、7割相当を3R活動推進フォーラムの事業収入とする。
3. 事業収入 7,722千円の内訳は次の通りである。

①「3R推進事業支援業務」(全国大会)	6,980千円
②「3R促進ポスターコンクール実施業務」	699千円
③クリアファイル・下敷き等の売却代	43千円

平成22年度 貸借対照表(案)

(平成23年 3月31日)

(単位:円)

資 産 の 部		負債及び正味財産の部	
科 目	金 額	科 目	金 額
【流動資産】		【負債】	
現 金	75,742	未 払 金	12,127
普通預金	1,411,169	【正味財産】	
未 収 金	0	正味財産	1,474,784
		(うち当期正味財産増加額)	(4,736,717)
資 産 合 計	1,486,911	負債及び正味財産合計	1,486,911

事業報告及び決算の監査

3 R活動推進フォーラムの平成22年度事業報告及び収支決算について監査したところ、いずれも適正に処理されていると認めます。

平成23年4月21日

監 事 社団法人 全国都市清掃会議

専務理事 佐々木五郎 

監 事 スチール缶リサイクル協会

専務理事 瀬谷弘三 

第2号議案

平成23年度 3R活動推進フォーラム事業計画(案)

第2次循環型社会形成推進基本計画に基づき、環境の保全を前提とした循環型社会と低炭素社会・自然共生社会を統合した「持続可能な社会」の構築に向け、各主体とのパートナーシップを図りつつ、地域循環圏の構築、各主体が連携・協働した3R推進活動などの取組みが求められています。

そこで、3R活動推進フォーラム（以下「3Rフォーラム」という。）では、平成23年度の事業計画として、3R推進全国大会や3R促進ポスターコンクールなどへの取組みに加え、新規会員の入会促進及び会員団体相互の連携・協働による3Rセミナーなどの開催とともに、広報普及活動、会員サービスの充実を図るため、以下の事業を実施する。

I 組織運営

3Rフォーラムの円滑な運営を図るため、理事会、総会を開催し、事業計画や予算及び決算等を決定するほか、関係省庁、学識者、関係団体等で構成する企画運営委員会を開催し、今後の事業について意見交換を行う。なお、個別のテーマについては、必要に応じてワーキンググループを設けて検討する。

1. 理事会

開催日時：平成23年4月27日（水）

議題：平成22年度事業報告及び決算について
平成23年度事業計画及び予算について

2. 総会

開催日時：平成23年4月27日（水）

議題：平成22年度事業報告及び決算について
平成23年度事業計画及び予算について

3. 企画・運営委員会

開催時期：平成24年2月頃

議題：平成24年度事業等について

II 会員の強化・拡充

自治体及び団体会員の入会を促進し、会員の強化・拡充を図る。

1. 自治体会員

会費の無料化によって、自治体会員の入会が増えているが、引き続き都道府県会員の増強及び政令指定都市等の入会を促進する。

2. 団体会員等

団体会員等への情報提供、連携強化を推進し、会員の入会促進を図る。

III 3R推進全国大会関連事業

今年度は、第6回3R推進全国大会を京都市で開催するとともに、大会式典で表彰する3R促進ポスターコンクールを実施する。

1. 3R推進全国大会の開催

「第6回3R推進全国大会（以下「3R推進全国大会」という。）」を3R活動推進フォーラムにおける最大の情報発信の場とし、関係機関とともに、開催地の京都市と具体的な企画・運営を行う。

- 開催期日 平成 23 年 10 月 28 日（金）～30 日（日）（予定）
- 開催場所 京都市

2. 3R促進ポスターコンクールの実施

3 R 促進ポスターコンクールは環境省と毎年実施しているもので、小学生、中学生を対象に 3 R を通じて循環型社会の構築を推進することをテーマとしたポスターを募集し、優秀作品に選定された児童・生徒を表彰するとともに、優秀作品を全国の 3 R 活動推進に活用する。

3. 循環型社会形成推進功労者等環境大臣表彰の推薦

平成 18 年度より行っている循環型社会形成推進功労者等環境大臣表彰の推薦者として、会員における循環型社会の形成について顕著な成果を上げている個人、企業又は団体について、フォーラムから循環型社会形成推進功労表彰の対象者として環境省に対して推薦を引き続き行う。

IV 循環型社会形成推進セミナー事業

循環型社会形成推進に向けて、セミナー等を 5 回程度開催する。とくに、NPO 等団体会員や地方自治体会員との共催事業を実施していく。

● 3 R エコポイントシンポジウム（仮称）

環境省が推進する 3 R エコポイントの活用による地域活性化について、事例等を通して今後の展開について話し合う。

主 催：環境省・3 R 活動推進フォーラム・NPO 法人持続可能な社会をつくる元気ネット

開催日：平成 23 年 6 月（予定）

会 場：東京都内

● 3 R ・循環フォーラム

自治体等との共催による 3 R 活動・地域循環を推進するフォーラムを開催する。

V 連携・協働事業

行政、民間団体、企業、NPO 等と連携・協働して 3 R 活動を推進する。

1. 3R推進地方大会への協力

地方環境事務所が中心となって開催する 3 R 推進地方大会に対して後援等の協力を行うとともに、積極的に PR し、地方の場における 3 R 活動の活性化に努める。

2. フォーラム会員団体等との連携・協働強化

フォーラム会員団体などの諸事業との共同開催や協力・後援等による連携を強化し、3 R 活動の推進事業の推進、拡大に努める。

なお、平成 22 年度実績（平成 23 年 3 月 31 日現在、ただし、3 R 推進地方大会は除く）は、共催 4 件、後援 5 件、協賛 3 件、協力 3 件、講師派遣等 6 件、参加 1 件となっている。

VI 広報普及活動

3 R の普及啓発のため、「環境にやさしい買い物キャンペーン」の実施、関連展示会への出展、メルマガの発信、各種出版物の発行などを行う。

1. 「環境にやさしい買い物キャンペーン」の実施

環境省、経済産業省とともに「環境にやさしい買い物キャンペーン」の実施を都道府県、流通事業者に呼びかけるとともに、同キャンペーンに併せて当フォーラムとして印刷して使用できるマイ・バッグ・キャンペーン用ポスターデザインデータを作成し、利用希望者に提供する。

2. 情報発信の強化

（1）「財団・3 R だより」を引き続き年 3 回（7 月・1 月に通常号、12 月に会員特集号）発行

する。

- (2) 3Rフォーラムの活動状況を事業年報（発行6月頃）としてとりまとめる。
- (3) メルマガ「3R・廃棄物ニュース」を引き続き月3回配信する。
- (4) ホームページを平成22年5月に刷新したが、引き続き内容の充実を図る。
- (5) エコライフ・フェアなど各種展示会等への出展を通して、3Rの啓発・普及を推進するとともに、当フォーラムの活動を紹介するなど情報発信の場として活用する。

- エコライフ・フェア 2011

開催日：平成23年6月4日(土)～5日(日) 会場：都立代々木公園

- 3R全国大会併催環境展

開催日：平成23年10月28日(金)～30日(日)（見込み） 会場：京都市内

- (6) 3Rに関するわかりやすいパンフレットの作成、3R技術の紹介、パネル等の3R広報ツールの提供など、一般向けの広報活動を強化拡充する。

- 3Rハンドブック（仮称）の作成

3Rの必要性、家庭でできる3R等を内容にした、一般向けのわかりやすいハンドブックを作成する。

- 全国自治体3R啓発グッズ集の制作・提供

現在、地方自治体が作成している3R啓発グッズについてアンケート調査し、参考にできる冊子としてまとめ、提供する。

3. 循環型社会推進功労者等環境大臣表彰受賞者等取組事例の集積と活用

環境省が毎年行っている循環型社会形成推進功労者等環境大臣表彰の受賞者の取組を中心に3Rに関する先進的取組事例集を作成し、3Rの啓発・普及を推進する。

VII 研修・学習相談事業

自治体及び会員団体から3R・資源循環に関する研修・学習相談事業の実施が求められている。そこで、ニーズを把握するために自治体等にアンケート調査を行い、要望があればワーキンググループを設置して、下記事項等を検討のうえ、実施する。

- ・研修テキスト冊子の作成
- ・初級・中級研修プログラムの作成
- ・講師等登録制度の構築
- ・研修会の支援に関する要綱

VIII 会員サービスの充実

組織の強化・拡充と相俟って、会員サービスの充実を図る。

1. 会員への情報提供の拡充

- (1) 会員ページの充実

平成22年5月にホームページを刷新し、会員ページを設置したが、内容の一層の充実を図る。

- (2) 事務局通信の発行

事業の進行状況や事務局の活動状況を報告する会員向けの「3R活動推進フォーラム事務局通信」を平成22年7月から不定期にメール配信してきたが、毎月1回定期的に配信していく。

2. 3R活動推進グッズの制作・配布

- (1) 3R啓発ポスターデータの制作・提供

3R推進キャンペーンポスターとして使用できる、3R促進ポスターコンクール入賞作品

をデザインしたポスターデータを制作し、会員希望者に提供する。

(2) 3 R 啓発グッズの制作・提供

展示会などで活用するクリアファイルなど 3 R グッズを作成、希望者にデータで提供する。

IX 調査研究の実施

環境省委託業務等により、3 R 活動の推進に係る各種調査研究の実施に努める。

平成23年度 収支予算(案)

自 平成23年4月 1日
至 平成24年3月31日

1 収入の部

(単位:円)

科 目	平成23年度 予算額	平成22年度 決算額	差引額	
1 利 息 収 入	1,300	1,279	21	
2 会 費 収 入	5,100,000	5,100,000	0	
3 事 業 収 入	7,700,000	7,722,150	△ 22,150	
当 期 収 入 合 計	12,801,300	12,823,429	△ 22,129	
前 期 繰 越 収 支 差 額	1,474,784	△ 3,261,933	4,736,717	
収 入 合 計	14,276,084	9,561,496	4,714,588	

2 支出の部

科 目	平成23年度 予算額	平成22年度 決算額	差引額	
1 事 業 費	8,850,000	5,230,751	3,619,249	
(1) 全 国 大 会	4,600,000	3,740,384	859,616	
(2) 普 及 啓 発 費	3,350,000	1,490,367	1,859,633	
(3) 調 査 事 業 費	900,000	0	900,000	
2 管 理 費	3,400,000	2,855,961	544,039	
3 予 備 費	500,000	0	500,000	
当 期 支 出 合 計	12,750,000	8,086,712	4,663,288	
当 期 収 支 差 額	51,300	4,736,717	△ 4,685,417	
次 期 繰 越 収 支 差 額	1,526,084	1,474,784	51,300	

第3号議案

役員改選（案）について

規約9条に基づく役員改選について、次のとおり改選する。（別紙役員一覧参照）

八木誠 電気事業連合会会長（関西電力（株）社長）を理事に任ずる。

（理由）電気事業連合会会長が清水正孝氏（東京電力（株）社長）から八木誠氏に交代したことに伴うもの。

3 企画・運営委員会

平成23年1月12日（水）に法曹会館（東京都千代田区霞が関 1-1-1）で平成22年度企画・運営委員会を開催し、平成22年度事業報告（案）、平成23年度事業計画（案）について説明し、3R活動推進フォーラムの今後の展開について意見交換を行った。委員会には、環境省、経済産業省、農林水産省、国土交通省からご出席をいただき、坂川勉廃棄物・リサイクル対策部企画課長からご挨拶をいただいた。

<出席者>

◇企画運営委員

田中 裕二	財団法人家電製品協会環境部長	
加納 敏行	建設副産物リサイクル広報推進会議幹事会幹事長	
山脇 敦	財団法人産業廃棄物処理振興財団適正処理推進部次長	)
神田 金弦	全国地区衛生組織連合会専務理事	
浅井 一宏	日本鋼業協会技術部次長	
山崎 敬	社団法人日本鉄鋼連盟技術環境本部	
貴田 晶子	一般社団法人廃棄物資源循環学会副会長	
遠藤佐知子	経済産業省産業技術環境局リサイクル推進課	
東川 直正	国土交通省事業総括調整官建設副産物企画官	
澤井 弘行	農林水産省食品環境対策室	
坂川 勉	環境省廃棄物・リサイクル対策部企画課長	
大森 恵子	環境省廃棄物・リサイクル対策部循環型社会推進室長	

◇環境省

鳥毛 暢茂	環境省廃棄物・リサイクル対策部循環型社会推進室室長補佐
皆川 裕哉	環境省廃棄物・リサイクル対策部循環型社会推進室企画係
近藤 祐介	環境省廃棄物・リサイクル対策部循環型社会推進室

◇事務局

八木 美雄	3R活動推進フォーラム 専任理事
藤本 正	3R活動推進フォーラム 事務局長
藤波 博	3R活動推進フォーラム 調査部長



平成22年度企画・運営委員会(平成23年1月12日 法曹会館)

Ⅱ 組織・規約

1. 役員(平成23年4月27日現在)

会 長	武 内 和 彦	東京大学大学院教授
副会長	杉 戸 大 作	(財)廃棄物研究財団 理事長
理 事	石 井 邦 夫	(公社)全国産業廃棄物連合会 会長
理 事	宇田川 育男	日本環境保全協会 会長
理 事	片 山 幹 雄	(財)家電製品協会 理事長 (シャープ株式会社代表取締役社長)
理 事	貴 田 晶 子	(一社)廃棄物資源循環学会 会長 (京都大学 環境保全センター教授)
理 事	北 橋 建 治	建設副産物リサイクル広報推進会議 会長
理 事	西 藤 久 三	(財)食品産業センター 理事長
理 事	崎 田 裕 子	(NPO)持続可能な社会をつくる元気ネット 理事長、ジャーナリスト
理 事	八 木 誠	電気事業連合会 会長
理 事	末 吉 興 一	国際東アジア研究センター 理事長
理 事	林 文 子	(社)全国都市清掃会議 会長
理 事	福 島 秀 男	(社)日本経済団体連合会環境安全委員会廃棄物・リサイクル部会長代行
理 事	藤村 コノエ	(NPO)環境文明 21 共同代表
理 事	三 井 崇 裕	(一社)全国清掃事業連合会 会長
理 事	八 木 美 雄	専任、(財)廃棄物研究財団 専務理事
(理事 アイエエ順)		
監 事	酒 卷 弘 三	スチール缶リサイクル協会 専務理事
監 事	佐々木 五郎	(社)全国都市清掃会議 専務理事
(監事 アイエエ順)		
顧 問	愛 知 和 男	(社)全国地区衛生組織連合会 会長
顧 問	加 藤 三 郎	(株)環境文明研究所 代表取締役・所長
顧 問	庄 子 幹 雄	特定非営利活動法人 環境立国 理事長
顧 問	細 田 衛 士	慶應義塾大学 経済学部 教授
(顧問 アイエエ順)		

2. 会員

No.	団 体 名	No.	団 体 名	No.	団 体 名
	自治体会員	31	佐賀県くらし環境本部循環型社会推進課	31	(社)全国都市清掃会議
1	青 森 県	32	長 崎 県	32	(財)全国老人クラブ連合会 ※
2	岩手県環境生活部資源循環推進課	33	大 分 県	33	全日本自治団体労働組合
3	山 形 県	34	沖 縄 県	34	電気事業連合会
4	茨城県生活環境部廃棄物対策課	35	川口市	35	日本環境安全事業㈱
5	栃 木 県	36	東海市清掃センター	36	(社)日本環境衛生施設工業会
6	群馬県環境森林部廃棄物・リサイクル課	37	船橋市クリーン推進課	37	(財)日本環境衛生センター
7	埼 玉 県	38	佐賀市環境下水道部循環型社会推進課	38	(財)日本環境協会
8	千 葉 県	計38会員 (34都府県78市24町3村11一部事務組合)		39	(財)日本環境整備教育センター
9	東 京 都 環 境 局			40	日本環境保全協会
10	かながわ3R推進会議 (神奈川県、横浜市、川崎市、相模原市、横須賀市)	民間団体会員		41	日本化粧品工業連合会
11	新 潟 県	1	(公財)あしたの日本を創る協会 ※	42	日本鉱業協会
12	富 山 県	2	アルミ缶リサイクル協会	43	日本再生資源事業協同組合連合会
13	石川県環境部廃棄物対策課	3	大阪湾広域臨海環境整備センター	44	(財)日本産業廃棄物処理振興センター
14	福井県安全環境部循環社会推進課	4	(財)家電製品協会	45	(財)日本消費者協会 ※
15	長野県環境部廃棄物対策課	5	紙製容器包装リサイクル推進協議会	46	(社)日本消費生活アドバイザー・コンサルタント協会
16	岐 阜 県	6	ガラスびんリサイクル促進協議会	47	日本醤油協会
17	静 岡 県	7	(一社)環境衛生施設維持管理業協会	48	(社)日本自動車工業会
	ごみゼロ社会推進あいち県民会議 (愛知県、名古屋、豊橋市、岡崎市、一宮市、瀬戸市、半田市、春日井市、豊川市、津島市、碧南市、刈谷市、豊田市、安城市、西尾市、蒲郡市、大山市、常滑市、江南市、小牧市、稲沢市、新城市、東海市、大府市、知多市、知立市、尾張旭市、高浜市、岩倉市、豊明市、日進市、田原市、愛西市、清州市、北名古屋、弥富市、みよし市、あま市(以上37市)、ほか15町2村)	8	(社)環境生活文化機構	49	日本生活協同組合連合会
19	三 重 県	9	(NPO) 環境文明21 ※	50	(社)日本即席食品工業協会
20	滋 賀 県	10	建設廃棄物協同組合	51	(一社)日本鉄鋼連盟
21	京都府文化環境部循環型社会推進課	11	(NPO)グリーンコンシューマー東京ネット※	52	(社)日本廃棄物コンサルタント協会
	大阪府リサイクル社会推進会議 (大阪府、大阪市、堺市、岸和田市、豊中市、池田市、吹田市、泉大津市、高槻市、貝塚市、守口市、枚方市、茨木市、八尾市、泉佐野市、富田林市、寝屋川市、河内長野市、松原市、大東市、和泉市、箕面市、柏原市、羽曳野市、門真市、摂津市、高石市、藤井寺市、東大阪市、泉南市、四条畷市、交野市、大阪狭山市、阪南市(以上33市)、ほか9町1村、11一部事務組合)	12	建設副産物リサイクル広報推進会議	53	(一社)日本パン工業会
23	兵 庫 県	13	(独)国立環境研究所	54	日本百貨店協会 ※
24	奈良県廃棄物対策課	14	(NPO) 最終処分場技術システム研究協会	55	(社)日本PTA全国協議会 ※
25	和歌山県環境生活部循環型社会推進課	15	(財)産業廃棄物処理事業振興財団	56	(社)日本有機資源協会
26	鳥 取 県	16	(NPO) 持続可能な社会をつくる元気ネット ※	57	日本労働組合総連合会
27	鳥 根 県	17	(財)食品産業センター	58	(一社)廃棄物資源循環学会 ※
28	岡山県ごみゼロ社会プロジェクト推進会議 (岡山県、岡山市、津山市)	18	(公社)食品容器環境美化協会	59	(財)廃棄物研究財団
29	山口県環境生活部廃棄物・リサイクル対策課	19	スチール缶リサイクル協会	60	(株)初田製作所
30	愛媛県県民環境部環境局循環型社会推進課	20	石油連盟	61	(一社)パソコン3R推進協会
		21	全国一般廃棄物環境整備協同組合連合会	62	びん再利用ネットワーク ※
		22	全国環境整備事業協同組合連合会	63	(社)プラスチック処理促進協会
		23	全国牛乳容器環境協議会	64	プラスチック容器包装リサイクル推進協議会
		24	(公社)全国産業廃棄物連合会	65	PETボトルリサイクル推進協議会
		25	(社)全国浄化槽団体連合会	66	(財)水と緑の惑星保全機構 ※
		26	全国生活学校連絡協議会 ※	計66会員(※会費免除団体15)	
		27	(一社)全国清掃事業連合会		
		28	(社)全国清涼飲料工業会		
		29	全国地域婦人団体連絡協議会 ※		
		30	(社)全国地区衛生組織連合会 ※		
				会員合計104団体	

3. 事務局

専任理事 八木 美雄 (廃棄物研究財団 専務理事)
 事務局長 藤本 正 (3R活動推進フォーラム 専任)
 調査部長 藤波 博 (廃棄物研究財団 兼任)
 事務局員 秋元 由美 (3R活動推進フォーラム 専任)

4. 3R活動推進フォーラム 規約

平成 4 年	9 月 2 5 日	総会決定
平成 9 年	6 月 1 6 日	一部改正
平成 1 4 年	7 月 3 日	一部改正
平成 1 6 年	5 月 2 8 日	一部改正
平成 1 7 年	1 2 月 9 日	一部改正
平成 1 8 年	5 月 3 1 日	一部改正
平成 1 9 年	5 月 2 2 日	一部改正
平成 2 1 年	5 月 1 2 日	一部改正
平成 2 2 年	4 月 2 8 日	一部改正

第 1 章 総 則

(名 称)

第 1 条 本団体は、3 R 活動推進フォーラム（以下「フォーラム」という。）と称する。

(所在地)

第 2 条 フォーラムは、事務所を東京都内に置く。

第 2 章 目的及び事業

(目 的)

第 3 条 フォーラムは、国民、事業者、行政、研究機関等が一体となって発生抑制(Reduce)、再使用(Reuse)、再生利用(Recycle)の 3 R による循環型社会づくりを推進することを目的とする。

(事 業)

第 4 条 フォーラムは、前条の目的を達成するため次の事業を行う。

- (1) 3 R に関する研鑽・啓発
- (2) 3 R に関する先進的事業の実施・支援
- (3) 3 R に関する調査研究の実施・支援
- (4) 3 R に関する国内外の情報の収集、提供
- (5) 前 4 項に掲げるもののほか、本会の目的を達成するために必要な事業

第 3 章 会 員

(会 員)

第 5 条 フォーラムの会員は、フォーラムの目的に賛同して入会した団体をもって構成する。

(入 会)

第 6 条 フォーラムの会員になろうとする団体は、フォーラムの趣旨に賛同し、入会申込書の提出をもって会員とする。

(負担金)

第 7 条 会員は、総会において別に定めるところにより、負担金を納入しなければならない。

2 自治体会員は負担金を免除する。

(退 会)

第 8 条 会員がフォーラムを退会しようとするときは、その旨を届け出なければならない。

第 4 章 組織及び運営

(役 員)

第 9 条 フォーラムに次の役員を置く。

理事 3 0 名以内

監事 2 名

- 2 理事及び監事は総会において選任する。
- 3 理事のうち1名を会長、5名以内を副会長とし、それぞれ総会において選出する。
- 4 会長は、フォーラムを代表し、会務を総括する。
- 5 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるときは、その職務を代行する。
- 6 監事は、フォーラムの会計を監査する。
- 7 役員の任期は2年とする。ただし、再任を妨げない。

(顧問)

第10条 本会に顧問(若干名)をおくことができる。顧問は理事会の承認を得て会長が指名する。顧問の任期は2年とする。ただし、再任を妨げない。

- 2 顧問は、会長の求めに応じて本会の運営に関して助言をする。

(総会及び理事会)

第11条 フォーラムの議決機関として、総会及び理事会を置く。

- 2 総会は会長が招集し、役員の任免、事業計画及び予算の決定、事業報告及び決算の承認、その他理事会が必要と認めた事項を審議し、議決する。
- 3 理事会は、会長が招集し、総会に付議すべき事項のほか、フォーラムの運営に関する重要な事項を議決する。

(企画・運営委員会)

第12条 フォーラムの組織、制度、事業計画について審議するため、企画・運営委員会を設置することができる。

- 2 企画・運営委員会の運営に関して必要な事項は、理事会が別に定める。

(事業計画及び予算)

第13条 フォーラムの事業計画及び予算は、会長が作成し、理事会及び総会の議決を経なければならない。ただし、次の総会までの期間に係る事務局運営費については、総会において事後承認することができる。

(事業報告及び決算)

第14条 フォーラムの事業報告及び決算は、毎会計年度終了後、3ヶ月以内に会長が事業報告書、収支決算書として作成し、監事の監査を経て理事会及び総会の承認を得なければならない。

(会計年度)

第15条 フォーラムの会計年度は1年とし、毎年4月1日に始まり翌年3月31日に終わる。

(事務局)

第16条 フォーラムの事務を処理するため、事務局を財団法人廃棄物研究財団に置く。

- 2 事務局の組織及び運営に関して必要な事項は、理事会が別に定める。

第5章 雑 則

(委 任)

第17条 この規約の施行について必要な事項については、理事会の決定するところによる。

附 則

この規約は、平成4年9月25日から施行する。
この規約の一部改正は、平成9年6月16日から施行する。
この規約の一部改正は、平成14年7月3日から施行する。
この規約の一部改正は、平成16年5月28日から施行する。
この規約の一部改正は、平成18年1月19日から施行する。
この規約の一部改正は、平成18年5月31日から施行する。
この規約の一部改正は、平成19年5月22日から施行する。
この規約の一部改正は、平成21年5月12日から施行する。
この規約の一部改正は、平成22年4月28日から施行する。

(参 考)

3R活動推進フォーラム 負担金に関する規定

平成17年12月9日 総会決定

規約第7条に基づき、次のとおりとする。

第1 会員は年会費として10万円を納付しなければならない。

第2 規約第6条に基づき入会するに際し、会費の納入が困難である等特別の事情がある場合には、第1の規定にかかわらず会費の納入を免除することができる。

第3 負担金は、5月末日までに納付するものとする。

5. 3R 活動推進フォーラム 企画・運営委員会設置要領

平成21年 5月12日理事会決定

(目 的)

第1条 3R活動推進フォーラム（以下 「フォーラム」という。）規約第12条により、フォーラムに企画・運営委員会（以下 「委員会」という。）を設置し、理事会から付託された事項または、会長より諮問された事項について審議することを目的とする。

(構 成)

第2条 委員会は、会員及び会員外の有識者をもって構成する。

(任 期)

第3条 委員の任期は2年とする。ただし、再任を妨げない。

(委員長)

第4条 委員会に委員長を置き、委員長は委員の互選により選任する。

(招 集)

第5条 委員会は、会長が招集する。

(委員会)

第6条 委員会は、フォーラムの組織、制度、事業計画について必要となる事項について審議する。

2 委員会は、審議に必要な調査を行うことができる。

3 委員会は、審議に必要と認める場合は、その目的に相応しい関係者を出席させることができる。

(審議事項の処理)

第7条 委員長は、委員会で審議決定した事項及び経過を理事会に報告し、または会長に答申しなければならない。

(附 則)

この要領は平成21年5月12日から施行する。

6. 「3R活動推進フォーラム」について

(1)「3R活動推進フォーラム」の沿革—ごみ減量化から3Rへ—

「3R活動推進フォーラム」の前身は、平成4年に設立された「ごみ減量化推進国民会議」にあります。平成3年(1991)10月、「廃棄物処理法」が改正され、従来からのごみの適正処理に加え、排出抑制、再生利用（リサイクル）等による「ごみ減量化」の推進が大きな柱（法目的）として加えられ、同時に国民、事業者、国及び地方公共団体にあつて、ごみ減量化の積極的推進が求められることとなりました。そのため、「ごみ減量化」を強力に推進するため、幅広い国民運動を展開する機関として、平成4年(1992)9月、「ごみ減量化推進国民会議」が(社)全国都市清掃会議を事務局として設立されました。その後、同会議では、全国大会開催とは別に、再生紙利用促進、自動販売機の在り方、包装について具体的な検討作業を精力的に行っています。その結果、平成7年(1995)6月には、再生紙マーク（R マーク）の設定、「マイ・バッグ・キャンペーン運動実施要領」の制定などが行われています。

平成12年(2000)6月、「循環型社会形成推進基本法」が公布されました。21世紀を迎え持続可能な社会を構築するためには、「ごみゼロ型社会」すなわち「循環型社会」への転換を推進することが強く求められることとなりました。そのため、平成14年(2001)7月、「ごみ減量化推進国民会議」から、更に一步踏み込んだ「ごみゼロ型社会造り」（循環型社会造り）の活動へと進むべく、「ごみゼロパートナーシップ会議」へと改称されました。

平成16年(2003)6月、米国シーアイランドで開催されたG8サミットにおいて、小泉元総理は、3R（ごみの発生抑制（Reduce）、再使用(Reuse)、再生利用(Recycle)）を通じた循環型社会の形成を目指す「3Rイニシアティブ」を提唱し、G8各国の首脳の合意を得ました。翌平成17年(2004)4月、我が国は「3Rを通じた循環型社会の構築を国際的に推進するための日本の行動計画」（ゴミゼロ国際化行動計画）を発表し、国内での循環型社会づくりを基礎として3Rの国際的推進に主導的役割を果たすことを世界に宣言しました。こうした国際的な動きを踏まえ、我が国の循環型社会づくりの一層の加速化と地球規模での循環型社会の形成に寄与することが求められてきました。そのため、3Rに関する社会的取組や先進的技術による取組をさらに進めるほか、会員相互の連携した活動の展開など、循環型社会への変革を強く意識した3R活動を一層推進するため、「ごみゼロパートナーシップ会議」を拡充発展させ、平成18年(2006)1月、「3R活動推進フォーラム」（会長：小宮山宏東京大学総長）が発足しました。そして、平成19年(2007)5月、(社)全国都市清掃会議から(財)廃棄物研究財団に事務局が移り、現在に至っています。

平成22年4月の総会では、武内和彦東京大学大学院教授に会長に就任していただくとともに、自治体会員の会費を免除する規約改正を決定し、組織及び事業推進についての強化を図りました。

(2)事業活動

3R活動推進フォーラムは、①3Rに関する研鑽・啓発、②3Rに関する先進的事業の実施・支援、③3Rに関する調査研究の実施・支援、④3Rに関する国内外の情報の収集、提供等に関連する事業を実施しています。具体的には、3R推進全国大会（10月）、ごみ不法投棄監視ウィークシンポジウム（5月）、3Rミニフォーラムなどの開催、3R推進地方大会などへの協力の他、3R促進ポスターコンクール、環境大臣表彰の推薦、マイバッグ・キャンペーンの実施など幅広く事業を展開しています。

平成23年度の事業計画については、4月27日の総会において承認されました。第2次循環型社会形成推進基本計画の実施などを踏まえ、国内外での対応強化が求められていることから、毎年開催している3R推進全国大会などへの取り組みに加え、この基本計画が求めている「各主体が連携・協働した3Rの取組」や「国際的な循環型社会形成に向けた取組」に貢献すべく、以下に示す事業を実施することとしています。

1) 3R推進全国大会の開催

平成23年10月28日(金)～30日(日)、京都市で全国大会を開催し、あわせて、3R促進ポスターコンクール、循環型社会形成推進功労者等環境大臣表彰の推薦も実施する。

2) 3R推進地方大会への参加

環境省地方環境事務所が中心となって開催する3R推進地方大会に積極的に参加し、地方の場における3R活動の活性化に努める。

3) 新循環型社会形成推進基本計画に関連した3Rフォーラムの開催

新循環型社会形成推進基本計画の推進を図るため、企業、市民・NPO、行政(国・地方自治体)、学会等各界からの参加を得て適宜3Rフォーラムを開催する。

4) 連携・協働事業

フォーラム会員団体などの諸事業との共同開催や協力・後援等による連携を強化し、3R活動の推進事業の推進、拡大に努める。

5) 環境にやさしい買い物キャンペーンの実施

環境省、経済産業省、3R活動推進フォーラムが行う「環境にやさしい買い物キャンペーン」を、10月の3R月間として実施し、その実績について報告書にとりまとめ関係者に配布する。

6) 研修・学習相談事業

自治体及び会員団体を対象に3R・資源循環に関する研修・学習相談事業のニーズを把握し、具体化を検討する。

7) 広報普及事業

フォーラムの活動状況を「財団・3Rだより」(年3回発行)、事業年報などにとりまとめ広報に努めるとともに、メルマガ「3R・廃棄物ニュース」の配信、ホームページ、展示会への出展等を通して、広く3Rの推進を啓発・普及していく

(3)おわりに—フォーラムの今後—

小泉元総理は、「日本の3R推進の経験—循環型社会の構築に向けて—」(環境省、2005年4月)において、「環境保護と経済発展を両立する実現する鍵は科学技術にあります。ごみを減らし、使えるものはくり返し使うというモノを大切にする「もったいない」という心が科学技術と結びついた時に、大きな力を発揮すると思います。」と述べています。これからは、「もったいない」というマインド、すなわち2R(ごみの排出量を減らすこと(Reduce)、使えるものは使うこと(Reuse))という先達のノウハウを明確に把握しながら、廃棄物・リサイクル関連技術の確立にも努める必要があります。

このような大きな命題を前にしたフォーラムですが、限られた人的・予算資源の中で、一步一步、実績を着実に積み上げ関係各位からの信頼を勝ち得て、3R活動分野の調整役(コーディネーター)の重責を果すことが求められています。今後とも、3R業務の推進に全力を尽くす所存ですので、国、地方公共団体、関係団体、NPOをはじめ関係各位のご指導、ご協力をお願いするものです。

<参考資料1> 3R活動推進フォーラムの沿革「ごみ減量化から3Rへ」

平成4年(1992)9月、「ごみ減量化推進国民会議」発足

平成14年(2002)7月、「ごみゼロパートナーシップ会議」に改組

平成18年(2006)1月、「3R活動推進フォーラム」に改組

平成19年(2007)4月、「3R活動推進フォーラム」事務局、(財)廃棄物研究財団に移る

＜参考資料2＞

3R関係年表

平成 元年 (1989)	6月、東京都、ごみ減量キャンペーン「TOKYO SLIM89」 8月、財団法人廃棄物研究財団設立 12月、鈴木都知事、都議会でゴミの非常事態を宣言
2年 (1990)	3月、廃棄物学会設立 10月、株価暴落し、バブル景気の崩壊 12月、「ダイオキシン類発生防止等ガイドライン」(旧ガイドライン)
3年 (1991)	6月、「再生資源利用促進法」公布 10月、「廃棄物処理法」改正され、法の目的にごみの減量化・発生抑制、再生(リサイクル)の推進が導入された
4年 (1992)	6月、地球サミット、リオ・デジャネイロで開催 9月、 <u>ごみ減量化推進国民会議</u> の設立総会を岡山市で開催 9月、 第1回ごみ減量化推進全国大会 (岡山県、岡山市)
5年 (1993)	11月、「環境基本法」公布 第2回ごみ減量化推進全国大会 (東京都)
6年 (1994)	5月、「再生紙利用促進のための具体的行動目標」採択 9月、 第3回ごみ減量化推進全国大会 (大阪府、大阪市) 12月、「環境基本計画」発表、循環、共生、参加、国際的取り組み
7年 (1995)	6月、「容器包装リサイクル法」公布 6月、 <u>ごみ減量化推進国民会議</u> 、「包装・容器の減量化に関する指針」採択、「再生紙使用マーク」(Rマーク)設定 「マイ・バッグ・キャンペーン運動実施要領」制定 9月、 第4回ごみ減量化推進全国大会 (千葉県、千葉市)
8年 (1996)	10月、 <u>ごみ減量化推進国民会議</u> 、「PETボトルのあり方についての検討委員会報告書」発表 10月、 第5回ごみ減量化推進全国大会 (福岡県、福岡市、北九州市)
9年 (1997)	1月、「ごみ処理におけるダイオキシン類発生防止ガイドライン」(新ガイドライン) 6月、 <u>ごみ減量化推進国民会議</u> 、「再生紙利用促進のガイドライン」採択 10月、 第6回ごみ減量化推進全国大会 (宮城県、仙台市)
10年 (1998)	6月、「家電リサイクル法」公布 6月、 <u>ごみ減量化推進国民会議</u> 、再生紙利用促進のガイドライン(改正)」採択 10月、 第7回ごみ減量化推進全国大会 (兵庫県、神戸市) 「地球温暖化対策法」公布
11年 (1999)	7月、「ダイオキシン類対策特別措置法」公布 10月、 第8回ごみ減量化推進全国大会 (埼玉県、浦和市)
12年 (2000)	5月、「建設リサイクル法」、「グリーン購入法」公布 6月、「循環型社会形成推進法」、「食品リサイクル法」、「資源有効利用促進法」公布 10月、 第9回ごみ減量化推進全国大会 (広島県、広島市)
13年 (2001)	1月、中央省庁再編により環境省が廃棄物・リサイクル行政を所管 10月、 第10回ごみ減量化推進全国大会 (北海道、札幌市)
14年 (2002)	7月、「自動車リサイクル法」公布 7月、 第10回総会 、「 <u>ごみゼロパートナーシップ会議</u> 」に改称 11月、 第1回ごみゼロ推進全国大会 (徳島県、徳島市)

15年 (2003)	3月、「循環型社会形成推進基本計画」公表 10月、 第2回ごみゼロ推進全国大会（富山県、富山市）
16年 (2004)	6月、G8シーアイランドサミット（米国）、小泉首相が3Rイニシアティブを提唱し合意される 10月、 第3回ごみゼロ推進全国大会（静岡県、静岡市）
17年 (2005)	2月、「京都議定書」発効 4月、「3Rイニシアティブ閣僚会合」を東京で開催 「3Rを通じた循環型社会の構築を国際的に推進するための日本の行動計画」（ごみゼロ国際化行動計画）発表 10月、 第4回ごみゼロ推進全国大会（長崎県、佐世保市）
18年 (2006)	1月、「ごみゼロパートナーシップ会議」を拡充発展させ「 <u>3R活動推進フォーラム</u> 」発足 3月、「3Rイニシアティブ高級事務レベル会合」を東京で開催 7月、会長に小宮山宏東京大学総長が就任 10月、 第1回3R推進全国大会（愛知県、名古屋市）
19年 (2007)	5月、 <u>事務局が(社)全国都市清掃会議から(財)廃棄物研究財団に移る</u> 「ごみ不法投棄監視ウィーク」がスタート 6月、「21世紀環境立国戦略」閣議決定、「3Rを通じた持続可能な資源循環」を推進 G8ハイリゲンダムサミット（独）、地球温暖化問題が最重要課題の一つとなる 安倍首相「美しい星50(クールアース50)」を提案 10月、 第2回3R推進全国大会(福岡県、北九州市)
20年 (2008)	3月、「循環型社会形成推進基本計画」改訂 7月、北海道洞爺湖G8サミット 10月、 第3回3R推進全国大会（山形県、山形市）
21年 (2009)	5月、エコポイントの活用によるグリーン家電普及促進事業実施 9月、国連気候変動サミットで、鳩山首相がわが国温室効果ガス排出量を2020年までに1990年比25%削減表明 10月、 第4回3R推進全国大会（千葉県） 11月、アジア3R推進フォーラム設立会合を東京で開催
22年 (2010)	4月、会長に武内和彦東京大学大学院教授が就任 11月、 第5回3R推進全国大会(佐賀県、佐賀市)
23年 (2011)	10月、 第6回3R推進全国大会開催予定（京都市）

Ⅲ 平成 22 年度事業概要

1. 第5回3R推進全国大会

(1)全体概要

1)開催概要

国民・事業者・行政が一堂に会し、循環型社会形成に関するそれぞれの知識や経験を交換するとともに、参加者一人一人が自らのライフスタイルを見直す機会を提供することを通じ、ごみの減量・再資源化などの 3R 推進に関する理解を深め、ごみゼロ社会の実現や循環型社会の形成に向けた取組みを推進することを目的に毎年開催されており、平成 22 年度は第 5 回 3R 推進全国大会実行委員会の主催により 11 月 2 日(火)～7 日(日)に佐賀市内のグランデはがくれ及び嘉瀬川何川敷(佐賀インターナショナルバノレーンフェスタ会場内)で開催された。

2)第 5 回 3R 推進全国大会実行委員会

委員長	佐賀県くらし環境本部長	古谷 宏
副委員長	佐賀市環境下水道部長	平尾 茂
委員	環境省大臣官房廃棄物・リサイクル対策部企画課長	金丸 康夫
	※平成 22 年 8 月 10 日付人事異動のため 坂川 勉 に交替	
〃	環境省九州地方環境事務所長	神田 修二
〃	3 R 活動推進フォーラム専任理事	八木 美雄
〃	佐賀県商工会議所連合会専務理事	島内 正彦
〃	社団法人佐賀県産業廃棄物協会長	石丸 博
〃	佐賀県消費者グループ協議会長	東島 美恵子
〃	特定非営利活動法人佐賀県 CSO 推進機構代表理事	川副 知子
〃	佐賀県「ストップ温暖化」県民運動推進会議事務局長	脇山 行人
監事	佐賀県くらし環境本部企画・経営グループ長	伊藤 正

3)開催の経緯

4 月 30 日 第 1 回実行委員会

実行委員会設置要綱、幹事会設置要綱、大会事業計画、大会収支予算書、実施スケジュール、委託業者の選定方法について決定。

5 月 27 日 第 1 回幹事会

大会運営業務等企画提案の募集の説明、企画提案業者によるプレゼンテーション及び委託業者の選定。

8 月 5 日 第 2 回幹事会

大会事業計画、実施イベント、大会式典開催内容について検討。さが環境展への出展申込状況、中央環境審議会循環型社会計画部会地域ブロックヒアリングについて説明。

10 月 1 日 第 3 回幹事会

大会事業計画、大会式典、さが環境展、関連イベント等について検討

10 月 12 日 第 2 回実行委員会

大会事業計画、収支予算書（補正）について決定

12 月 14 日 第 4 回幹事会

大会実施状況報告、収支決算書（案）について

12 月 17 日 第 3 回実行委員会

大会報告書（案）について、収支決算見込みについて

4) チラシ



(2) 第5回3R推進全国大会式典

1) 内容

- 日時 平成22年11月2日(火) 13:30~16:30
- 会場 グランデはがくれ 2階フラワーホール(佐賀市天神2丁目1-36)
- 参加者 一般市民、事業者、行政関係者など約400名
- 次第
 - 12:30 開場
 - 13:00 オープニングアトラクション「佐賀にわか」(佐賀ユーモア協会にわか部会)
 - 13:30 主催者挨拶 樋高剛環境大臣政務官 古川康佐賀県知事 秀島敏行佐賀市長
来賓挨拶 留守茂幸佐賀県会議長
 - 13:45 表彰式
循環型社会形成推進功労者等表彰
3R促進ポスターコンクール表彰
 - 14:35 特別講演
3R活動推進フォーラム会長 武内和彦(東京大学大学院教授)
「3Rが拓く地域の未来~資源、循環と自然共生を目指して~」
 - 15:30 記念講演
タレント乾貴美子(元ニュースステーション天気コーナー担当)
「わたしのおすすめ身近なエコ」
 - 16:20 大会宣言
佐賀市立神野小学校児童
 - 16:25 次回開催地挨拶 京都市環境政策局 坪内俊明
閉会挨拶 第5回3R推進全国大会実行委員会委員長
古谷宏(佐賀県くらし環境本部長)
 - 16:30 閉会

2) 式典のもよう



主催者挨拶



樋高剛環境大臣政務官



循環型社会推進功労者等環境大臣表彰の表彰式



3R 促進ポスターコンクールの表彰式



受賞者の皆さん

3)特別講演 「3R が拓く地域の未来～資源、循環と自然共生を目指して～」(概要)

3R活動推進フォーラム会長 武内和彦(東京大学大学院教授)

循環型社会の狙いは、大量消費社会を見直して、天然資源の利用をできるだけ抑制して、資源を使い回しするような社会つくることである。そのために3Rを推進している。それでも出る廃棄物はエネルギーとして回収する。日本の循環型社会の進行状況は、いろんな指標を使ってモニターしている。



資源の生産性を世界で見ると、スイスが一番効率が良く、次いでノルウェー、日本。他方、中国、インド、ブラジル、ロシアなどの資源生産性は悪く、特にアジアの新興国においてどうやって循環型社会を形成していくかを、アジアの一員としてわれわれも考えていかなければならない。

第2次循環基本計画の新しい取組では、地域循環圏という考え方がある。これには、循環型社会の形成が、ただ資源の再利用に貢献するだけでなく、地域の経済的な活性化に結び付けたいという意図がある。例えば、地産地消の農林水産業の振興が考えられる。それから、携帯電話や電化製品が巷にあふれているが、都市鉱山と呼ばれ天然資源を利用するよりも効率的に利用できるので、日本は資源大国だ。途上国には電化製品を処理する能力がないので、アジア全体で考えなければならない。私たちは、東アジア循環型社会のビジョンも提案している。

COP10では、里山イニシアティブを提唱した。里山の資源をうまく使うと、低炭素社会にもなり、循環型社会にもなる。開発と生物多様性の保全をどうやっていくかに悩んでいる途上国から評価されている。循環型社会は、人間社会の循環と自然社会の循環を一緒に議論していかなければならない。

4)記念講演 「わたしのおすすめ身近なエコ」(概要)

タレント乾貴美子(元ニュースステーション天気コーナー担当)

私は第1回のエコ検定に合格した。受験して環境問題で起きていることや、なぜエコな行動をしなければいけないのかがわかり、納得して行動できるようになった。それと同時に、エコな行動として推奨されていることの全部が正しいわけでもないということ学んだ。



例えば、なぜマイバッグかというと、レジ袋が石油という限りある資源からつくられているからだ。私の住んでいる自治体では、レジ袋をごみ袋としてリユースできるので、あまりマイバッグは持ち歩かない。いけないのはマイバッグをたくさん買うこと。お箸も、日本で使われている箸の9割が中国でつくられた箸で、森林を伐採してつくられている。日本製のものであれば、間伐材や木材のあまったものからつくられているので、マイ箸は持ち歩かないが、買うのであれば日本製のものをかうようにしている。どちらが良いのか、難しい問題がたくさんある。一番大事なのは、自分のライフスタイルに合ったエコロジーなことを継続することだと思う。

エコ検定と一緒に、ラッピングコーディネーターという資格も取った。その時に風呂敷の使い方をお教えてもらった。風呂敷はバッグにもなり、マフラー代わりにもなり、ひざかけにもなり、1枚あると便利だ。台所でもできることはいっぱいある。食材はなるべく使いきるように心掛けている。

一人でできることは小さいが、みんなでやれば地球を守ることになるので、これからも頑張っていきたい。

5)大会宣言 佐賀市立神野小学校児童(6年生)

- ものを大切にして、落としものをしません。
- 落ちているごみはきちんと拾ってゴミ箱に捨てます。
- まだ使える紙はリユースします。
- 裏が白い紙はリユースし、最後まで大切に使います。
- 環境のことを考え、ごみ拾いに取り組みます。
- 燃えるごみや燃えないごみはきちんと分別します。
- ごみを分別してリサイクルし、資源を大切にします。
- 使えるものは最後までちゃんと使ってごみを減らします。
- 使えなくなったものはリサイクルします。
- ごみを減らして節約します。
- 両面使った紙はリサイクルします。
- 燃えるごみ、燃えないごみをちゃんと分別します。



(3)さが環境展

1)概要

- 日程 11月3日(水)～7日(日)
- 会場 嘉瀬川河川敷(佐賀市)
(2010佐賀インターナショナルバルーンフェスタ会場内)
- 来場者 50,771名(5日間合計)

2)オープニングセレモニー

○主催者挨拶

伊藤 哲夫(環境省廃棄物・リサイクル対策部長)
古賀 盛夫(佐賀市副市長)

○アトラクション 佐賀県警察音楽隊

○テープカット

伊藤 哲夫(環境省廃棄物・リサイクル対策部長)
古賀 盛夫(佐賀市副市長)
神田 修二(環境省九州地方環境事務所長)
古谷 宏(佐賀県くらし環境本部長)
武内 和彦(3R活動推進フォーラム会長)
島内 正彦(佐賀県商工会議所連合会専務理事)
石丸 博(社団法人佐賀県産業廃棄物協会会長)
東島美恵子(佐賀県消費者グループ協議会長)
石崎 方規(特定非営利活動法人佐賀県CSO推進機構事務局長)
橋本 辰夫(佐賀県地球温暖化防止活動推進センター長)
脇山 行人(佐賀県「ストップ温暖化」県民運動推進会議 事務局長)



伊藤部長



テープカット

3) 展示会場

- ブース展示 企業・団体数 30
- 会場レイアウトとイベント

3R推進 全国大会 さが環境展

会場アンケートプレゼント

A賞 嬉野温泉 ペア宿泊券 (1万円相当)
B賞 佐賀牛
C賞 さがびより (贈り物)

会場アンケートに回答すると、各賞が当たるチャンスです。

ホールフェスタ会場図

3R川柳大会「絵巻コーナー」
 3月10日大会の抽選にぜひご参加ください。

ステージイベント

探してみよう、佐賀のエコ！ 企業団体PRコーナー

11/3 (水) ゆるキャラPRステージ (佐賀県教育庁)
11/4 (木) 生3の絶世化実験 (佐賀県)
11/5 (金) エコドライブと資金循環システム「ECO-SAM」の紹介 (県庁・県庁)
11/7 (日) 生3と佐賀のエコ！ 佐賀県庁・佐賀県庁

ミニエコ検定大会

11/3 (水) 16:00~16:30・11/7 (日) 11:30~12:00

体技ゾーン

エコ賢人になろう！ 環境寺子屋 (ワークショップ)

11/3 (水) 廃材を使った工作教室
11/4 (木) 牛乳パックからハカキを作ろう
11/5 (金) ダンボールコンポスト講座
11/6 (土)・11/7 (日) エコバックステッチ大会

出展ゾーン

3R推進推進に賛同する企業・団体による、環境展

1 九州電力 (株) 佐賀支店 電力の大切さを伝えるための展示。
2 (株) トーヨー トーヨーの展示。
3 (株) 佐賀県庁 佐賀県庁の展示。
4 佐賀県環境センター 佐賀県環境センターの展示。
5 (株) 佐賀県環境センター 佐賀県環境センターの展示。
6 (株) シンワ シンワの展示。
7 (株) シンワ シンワの展示。
8 (株) シンワ シンワの展示。
9 (株) シンワ シンワの展示。
10 (株) シンワ シンワの展示。

○会場入り口



○ステージイベントのもよう



○当フォーラムでは、(財) 廃棄物研究財団と共同で、ブース展示を行った。



(4)関連イベント

1) 環境省中央環境審議会循環型社会計画部会地域ブロックヒアリング

- 主 催 環境省
- 日 時 11月3日(水) 13:00~15:00
- 会 場 アバンセ(佐賀市天神3丁目2-11)
- 来場者 約140名
- 内 容
 - ・佐賀県における3Rの取組 佐賀県くらし環境本部 副本部長 坂本弘幸
 - ・佐賀市のごみの現状 佐賀市環境下水道部循環型社会推進課 主任 古賀慎司
 - ・バイオマス複合利活用事業で資源循環を推進
有限会社鳥栖環境総合センター 総務部 技術主任 伊地知武郎
 - ・「生ごみを宝に！」資源循環型社会をめざして
NPO法人伊万里はちがめプラン 理事長 福田敏明
 - ・会場との質疑応答



2)プレイベント

①3R推進全国大会プレイベント記念講演会

- 日 時 10月22日(金)
- 主 催 社団法人佐賀県産業廃棄物協会、佐賀県解体・リサイクル協議会
- 会 場 佐嘉神社記念館
- 来場者 約100名

②佐賀市環境問題講演会

- 日 時 10月29日(金) 14:00~16:00
- 主 催 佐賀市
- 会 場 佐賀市文化会館中ホール
- 来場者 約600名

③さが環境フェスティバル in 森林公園

- 日 時 10月29日(金)~31日(日) 10:00~17:00
- 主 催 佐賀県立森林公園、佐賀県地球温暖化防止活動推進センター、第5回3R推進全国大会実行委員会
- 会 場 佐賀県立森林公園
- 来場者 約9,000名

2. 3R促進ポスターコンクール

「循環型社会」の実現のために各種制度の適正な運用と併せてごみの減量と リサイクルの促進に向けて、広く国民に対してその意義を啓発することが何より重要となっており、3R促進ポスターコンクールは、3Rを促進するための啓発用ポスターを公募し、優秀な作品を選考することにより、「循環型社会」の実現の啓発に資することを目的として、環境省と3R活動推進フォーラムが毎年実施してきた。募集は小学生低学年、小学生高学年、中学生の3部門で行われ、絵としての出来栄え、3Rのキャッチコピー、ポスターとしてのデザイン性、アピール度の観点から、各部門で最優秀作品1点、優秀作品5点、佳作15点を選定した。表彰式は第5回3R推進全国大会記念式典において行われ、最優秀賞受賞者の3名に樋高環境大臣政務官より表彰状が授与された。

入賞作品は、佐賀県で行われた第5回3R推進全国大会式典会場及びさが環境展で展示、紹介された。また、最優秀作品は平成23年カレンダーとしてデザインされ、全都道府県、会員等に配布した。また、クリアファイルにデザインし、展示会等で配布することとしている。

(1)応募状況

平成22年4月1日付環境企発第100401001号環境省大臣官房廃棄物・リサイクル対策部長名で各都道府県知事あて「平成22年度3R促進ポスターコンクールの実施について」が通知され、都道府県を通して全国の小、中学校を対象に3Rをテーマとしたポスターの募集が開始された。

締切日の9月21日(火)(郵送、消印有効)までに、3R活動推進フォーラムに送付された応募総数は、小学生低学年1,682点、小学生高学年4,041点、中学生3,208点、総計8,931点であった。

(都道府県別・部門別応募数一覧表参照)

(2)審査

応募作品は環境省廃・リ部長通知に示された3R促進ポスターコンクール実施要領に則り、指定サイズ外のもの、糊等を使用して張り付けた立体性のあるものなど規定に外れるもの、あるいは3Rのキャッチコピーのないものなどを除く粗選別を実施したのち、一次審査、二次審査を経て選定された。

1)一次審査

- 日 時 9月27日(金)14:00~17:00
- 会 場 (財)廃棄物研究財団会議室
- 審査員 牟田幸秀東京都庭園美術館副館学芸員
- 選定数 小学生低学年の部 30点
小学校高学年の部 36点
中学生の部 40点



一次審査のもよう

2)二次審査

- 日 時 9月24日(木) 14:00~16:00
- 会 場 法曹会館2階 寿の間
- 審査委員 6名

審査委員名簿

氏 名	所 属
牟田行秀	財団法人 東京都歴史文化財団 東京都庭園美術館学芸員
三浦佳子	消費生活コンサルタント
坂川 勉	環境省 大臣官房 廃棄物・リサイクル対策部 企画課長
大森恵子	環境省 大臣官房 廃棄物・リサイクル対策部企画課 循環型社会推進室長
鳥毛暢茂	環境省 大臣官房 廃棄物・リサイクル対策部企画課循環型社会推進室 室長補佐
八木美雄	3R 活動推進フォーラム 専任理事



二次審査委員会

(3)表彰等

最優秀受賞者は、平成 22 年 11 月 2 日（火）に佐賀県佐賀市で開催された「第 5 回 3 R 推進全国大会」において表彰された。

また、式典会場入り口及び同時開催のさが環境展展示ブースにおいて、入賞作品を写真展示した。



第 5 回3R推進
全国大会おけ
る表彰式

平成22年度3R促進ポスターコンクール都道府県別・部門別応募数

No.	都道府県	小学低学年			小学高学年			中学校			計
		1	2	3	4	5	6	1	2	3	
1	北海道	0	0	6	11	12	1	0	1	0	31
2	青森県	0	4	7	10	10	6	5	10	2	54
3	岩手県	0	1	5	13	16	18	2	7	4	66
4	宮城県	0	8	15	30	28	30	23	34	13	181
5	秋田県	1	0	0	0	0	6	1	2	5	15
6	山形県	3	7	2	21	11	44	5	12	2	107
7	福島県	3	9	9	36	28	31	60	78	53	307
8	茨城県	46	52	77	94	103	159	72	70	59	732
9	栃木県	23	57	77	64	87	119	71	65	81	644
10	群馬県	18	17	15	18	18	27	18	40	12	183
11	埼玉県	25	37	73	101	88	116	20	28	19	507
12	千葉県	23	27	44	86	77	106	52	43	29	487
13	東京都	1	6	7	34	10	7	18	66	10	159
14	神奈川	5	4	9	8	13	9	6	11	17	82
15	新潟県	1	6	0	1	2	3	1	2	1	17
16	富山県	1	0	1	1	1	2	2	0	0	8
17	石川県	0	0	2	20	7	3	8	14	2	56
18	福井県	0	0	0	2	2	3	3	0	2	12
19	山梨県	1	0	2	1	17	3	25	13	7	69
20	長野県	2	1	4	5	22	38	12	21	1	106
21	岐阜県	9	4	16	16	18	10	7	25	5	110
22	静岡県	0	0	15	5	7	28	11	18	28	112
23	愛知県	136	230	299	383	349	420	239	267	337	2660
24	三重県	0	1	0	0	0	1	1	9	2	14
25	滋賀県	0	2	0	8	2	0	30	139	23	204
26	京都府	0	0	0	10	1	2	3	9	2	27
27	大阪府	1	1	1	1	1	2	0	0	0	7
28	兵庫県	2	14	19	39	32	35	16	29	42	228
29	奈良県	1	3	4	10	12	5	0	8	15	58
30	和歌山県	0	0	0	11	28	5	1	0	0	45
31	鳥取県	0	0	0	0	0	0	10	3	29	42
32	島根県	0	0	0	19	10	1	11	4	10	55
33	岡山県	0	1	1	13	5	2	7	5	9	43
34	広島県	2	2	2	25	5	21	25	27	40	149
35	山口県	1	0	0	1	3	1	2	0	0	8
36	徳島県	0	1	6	3	9	14	5	3	2	43
37	香川県	7	16	20	55	37	33	23	34	34	259
38	愛媛県	11	22	44	106	62	81	22	32	21	401
39	高知県	0	0	0	0	0	0	0	0	6	6
40	福岡県	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
41	佐賀県	3	1	1	10	8	15	28	36	16	118
42	長崎県			1		1	3	25	8	5	43
43	熊本県	3	1	2	4	2	8	13	9	7	49
44	大分県	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
45	宮崎県	4	3	13	33	36	67	28	109	22	315
46	鹿児島県	1	6	5	15	18	35	20	7	2	109
47	沖縄県	0	0	0	0	0	0	0	0	3	3
学年別計		334	544	804	1323	1198	1520	931	1298	979	8931
部門別計		1682			4041			3208			8931

(4)入賞作品

1)小学生低学年の部

○最優秀賞



群馬県伊勢崎市赤堀南小3年

○優秀賞



栃木県佐野市葛生南小3年



長野県諏訪市城北小学校3年



栃木県佐野市天明小3年



富山県氷見市朝日丘小3年



愛媛県大洲市喜多小3年

○佳作



愛知県安城市立安城東部小3年



愛知県西尾市立花ノ木小3年



愛知県知立市立猿渡小2年



栃木県さくら市立南小3年



愛媛県今治市立日高小3年



千葉県旭市立共和小2年



栃木県佐野市立平伏小3年



長野県飯山市立飯山小2年



愛媛県八幡浜市立神山小3年



愛媛県伊予郡松前町立北郷小3年



徳島県阿波市柿原小2年



埼玉県さいたま市立大崎小3年



徳島県笠戸町市立浦小3年



栃木県佐野市石塚小2年



宮城県塩竈市立第三小2年

2) 小学生高学年の部

○最優秀賞



香川県さぬき市長尾小4年

○優秀賞



山形県米沢市立興譲小6年



愛知県豊橋市立福岡小6年



愛知県西尾市立米津小6年



千葉県長生郡長生村立一松小5年



広島県呉市立白岳小6年

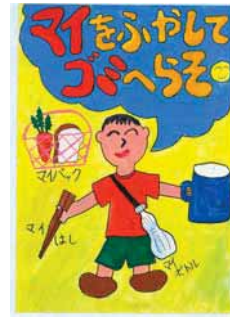
○佳作



徳島県阿波市立柿原小6年



愛知県安城市立梨の里小5年



愛知県豊橋市立花田小4年



香川県豊松市立屋島小5年



香川県多度郡
多度津町 白方小6年



栃木県下都賀郡
岩舟町立静和小6年



徳島県阿波市立柿原小5年



宮城県石巻市立橋南小6年



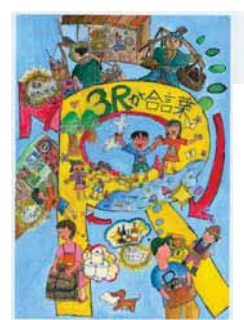
長野県飯山市立戸狩小6年



千葉県山武郡
大網白里町立増穂北小6年



愛知県みよし市立北部小6年



愛媛県八幡浜市立神小6年



千葉県茂原市立東郷小5年



宮城県多賀城市立多賀城小5年



茨城県土浦市立乙戸小5年

3) 中学生の部

○最優秀賞



群馬県佐波郡玉村町玉村中3年

○優秀賞



滋賀県長浜市立北中3年



千葉県旭市立第一中2年



愛知県豊橋市立中部中3年



愛知県額田郡
幸田町立幸田中3年



宮崎県児湯郡
新富町立富田中1年

○佳作



宮城県仙台市立作中2年



神奈川県鎌倉市立鶴が丘中3年



埼玉県さいたま市立岸中2年



千葉県取市立廣田中学校2年



兵庫県加古川市立美方中3年



愛知県豊橋市立平島中2年



愛知県稲沢市立稲沢西中2年



佐賀県立鳥栖市田代中学校2年



兵庫県加古川市立山手甲中3年



茨城県筑西市立下館田校3年



香川県仲多度郡 多度津町立多度津中学校2年



岐阜県揖斐郡 大野町立大野中学校1年



愛知県岡崎市立篠田中3年



東京都葛飾区立堀切中3年



兵庫県加古川市立神岸中2年

(5)入賞作品の展示

入賞作品は第5回3R推進全国大会式典会場入り口とさが環境展ブースでパネル展示した。



(6)表彰状

表彰状には受賞者の作品がプリントされている。



(7)実施要領等

平成22年度3R促進ポスターコンクール実施要領

1. 目 的

従来の大量生産・大量消費型の経済社会活動は、大量廃棄型の社会を形成し、環境保全と健全な物質循環の阻害に結び付く側面を有しています。我が国では、毎年、膨大な量の廃棄物が生ずるとともに、廃棄物等の多様化に伴う処理の困難化や不適正な処理による環境負荷の増大、最終処分場の残余容量のひっ迫等さまざまな局面で深刻な状況が続いています。

私たちがこのような社会経済活動を続けた場合には、廃棄物を受け入れる環境容量の制約や資源制約に突き当たることになり、社会経済の持続可能な発展に支障を来すおそれがあります。

こうした現状を踏まえると、持続可能な社会に向けてさらに努力を傾注し、低炭素社会や自然共生社会に向けた取組とも統合して、天然資源の消費抑制と環境負荷の低減を目指すとともに3R（廃棄物の発生抑制（Reduce）、再使用（Reuse）、再生利用（Recycle））をはじめとした取組による、循環型社会の形成を、国内はもとより国際的にも実現していくことが喫緊の課題となっています。

また、循環型社会の形成に向けて、循環型社会形成推進基本法第15条の規定に基づき策定している「循環型社会形成推進基本計画」における国の取組として、地域、学校、家庭、職場等様々な場における連携を図りながら、単に一方的な情報発信にとどまらず、関係主体が相互に学びあえる取組を行っていくことが重要とされています。

本コンクールは、3Rを促進するための啓発用ポスターを公募し、優秀な作品を選考・表彰することにより、国民一人一人が循環型社会のあり方について考えるきっかけになるとともに、普及啓発にも資することを目的とするものです。

2. 主 催

環境省及び3R活動推進フォーラム

3. 募集方法

市町村広報誌等により募集する。

4. 募集区分

- ・小学生低学年の部（1年生から3年生）
- ・小学生高学年の部（4年生から6年生）
- ・中学生の部

5. 締め切り及び提出方法

- ・応募者（作成者）は、平成22年9月13日（月）（市町村により締め切り日は変更することができる）までに住居を有する市町村循環型社会又は廃棄物担当課に作品（ポスター）を提出する。
- ・市町村は、各募集区分ごとに作品（ポスター）を取りまとめの上、平成22年9月21日（火）（消印有効）までに下記の「3R活動推進フォーラム事務局」あて提出する。また、

市町村は各募集区分ごとの提出数を別紙２により、平成２２年９月１５日（水）までに都道府県に報告する。

- ・都道府県においては、各市町村より提出のあった報告を別紙１により集計し、市町村から提出された別紙２の（写）とともに、平成２２年９月２１日（火）までに「３Ｒ活動推進フォーラム事務局」まで報告する。

６．賞の授与

募集区分ごとに

最優秀賞	１点	賞状
優秀賞	５点	賞状
佳作	１５点	賞状

を授与する。

７．入賞作品の決定・通知

有識者等により構成する審査委員会において、募集区分ごとに優秀と認められた作品に優秀賞を、また、特に優秀と認められた作品に最優秀賞を、さらに、佳作を選定し、１０月上旬頃「３Ｒ活動推進フォーラム事務局」より都道府県通じて本人宛通知する。

８．表彰方法

最優秀賞は、本年１１月２日（火）に、佐賀県佐賀市で開催予定の「３Ｒ推進全国大会」において、環境大臣表彰を行う予定。

９．その他

- ・**応募作品は返却しないものとし、著作権、著作隣接権、商標権、商品化権、意匠権及び所有権は主催者に属するものとする。**
- ・入賞作品は、３Ｒ推進活動等のＰＲ用として活用する。
- ・**なお、本件関連資料一式は別途メールにて各都道府県循環型社会関連部局あてに送付したので、ご確認願いたい。**

[提出先]

〒130-0026

東京都墨田区両国３丁目２５－５ ＪＥＩ両国ビル８Ｆ
（財）廃棄物研究財団内

３Ｒ活動推進フォーラム事務局 あて

TEL 03-5638-7162

FAX 03-5638-7164

e-mail poscon@3r-forum.jp

事 務 連 絡
平成 22 年 4 月 1 日

各都道府県 3 R 促進ポスターコンクール
担当者 殿

環境省大臣官房廃棄物・リサイクル対策部
企画課循環企画係長

平成 22 年度 3 R 促進ポスターコンクールについて

廃棄物・リサイクル行政の推進につきましては、かねてよりご高配を賜り、誠にありがとうございます。

さて、標記については、平成 22 年 4 月 1 日付け環廃企発第 100401001 号により通知されたところでありますが、ポスターコンクールの応募に当たっては、下記の点に留意の上で応募していただくよう、管内の市町村への周知方よろしくお願いします。

記

1. 作品（ポスター）の規格について

- (1) 作品（ポスター）のサイズは、四つ切り画用紙（380 mm×540 mm）又は、B3 版（364 mm×515 mm）とします。

なお、指定のサイズで応募されない場合は、無効とします。

- (2) 作品の画材については、特に問いませんが、立体性のある作品（糊等を使用して張り付けたもの）は、審査対象外とします。

- (3) 応募作品の審査基準は、循環型社会の構築に向けて、3 R（廃棄物等のリデュース、リユース、リサイクル）への広範な理解をより一層深めるという観点から、絵画としての評価、3 R のキャッチコピー、ポスターとしてのデザイン性、アピール度から総合的に審査します。

2. 作品（ポスター）の応募方法等について

- (1) 作品（ポスター）の裏面には、必要事項を記入した別紙様式を必ず貼付して下さい。（入賞者への連絡等の都合上、必ず別紙様式に必要事項を記入して作品の裏面に貼付して下さい。）

- (2) 作品は、折ったり、丸めたりしないでください。

- (3) 作品の応募数については、1 学校につき下記の募集区分ごとに 10 点以内とします。

○募集区分

- ・ 小学校低学年の部（１年生から３年生）
- ・ 小学校高学年の部（４年生から６年生）
- ・ 中学生の部

（４）応募された作品の著作権、著作隣接権、商標権、商品化権、意匠権及び所有権は主催者に属し、作品は返却いたしません。

（５）入賞作品につきましては、主催者等（主催者が認める新聞等）が作成する広報用のポスター、パンフレット等に入賞者の氏名や学校名が掲載される場合があります。

３．その他

（１）作品の提出期限

市町村におかれましては、作品（ポスター）を各募集区分ごとに取りまとめの上で、「３Ｒ活動推進フォーラム事務局」へ平成２２年９月１３日（月）までに提出（消印有効）して下さい。（提出期限を越えたものはすべて無効とします。）

また、併せて市町村におかれましては、別紙２により「応募一覧表」を作成の上、各募集区分ごとの作品の提出数を平成２２年９月１５日（水）までに都道府県に報告して下さい。

○提出先：

〒130-0026

東京都墨田区両国３丁目２５－５ 両国第一生命ビル８Ｆ

（財）廃棄物研究財団内

３Ｒ活動推進フォーラム事務局 あて

TEL 03-6908-7311

FAX 03-5638-7164

e-mail poscon@3r-forum.jp

（２）作品の応募部数の報告

都道府県におかれましては、県内の各市町村から（１）により報告を受けた別紙２の「応募一覧表」を集計の上、県全体の作品の提出数を別紙１及び市町村から提出された別紙２の（写）とともに、平成２２年９月２１日（火）までに「３Ｒ活動推進フォーラム事務局」まで報告（e-mailまたはFAX）して下さい。

なお、本件関連資料一式は別途メールにて各都道府県循環型社会関連部局あてに送付しましたので、ご確認ください。

（３）ポスターコンクールの広報

市町村において、各市町村内の小・中学校等に対して「ポスター」募集の広報等を実施される場合は、別紙３「３Ｒ促進ポスターコンクール募集について」をご活用下さい。

別紙様式

ふりがな 氏 名			
年 齢		学 年	
作品コメント (50文字以内で、作品 にこめられた環境への 思いなどを書いてくだ さい。)			
ふりがな 学 校 名			
ふりがな 学校の住所	〒		
学校の電話番号			

*本票は、必要事項を記入の上、作品（ポスター）の裏面に貼って下さい。

3. 循環型社会推進功労者等環境大臣表彰の推薦

(1) 当フォーラムからの推薦と受賞

環境省が実施する循環型社会推進功労者等環境大臣表彰は、先駆的又は独創的な取組により、循環型社会の形成について顕著な成果を上げている個人、企業又は団体を表彰するもので、平成 22 年度では、企業 20 件、団体 9 件および個人 7 件の計 36 件が受賞となった（受賞者一覧参照）。

この「循環型社会形成推進功労環境大臣表彰」は、平成 18 年 7 月 7 日環廃対発第 060707002 号環境大臣通知による実施要領（別表参照）に基づき、3 R 活動推進に功労のあった個人及び団体、並びに 3 R 活動優良企業を表彰するもので、被表彰者決定の手続きについては、「被表彰者（又は団体）は、都道府県又は 3R 活動推進フォーラムが推薦する者（又は団体）について、別途定める表彰選考会の審査を経て環境大臣が決定する。被表彰者の推薦については、（中略）毎年 7 月 1 日までに大臣あて行うものとする。」とされている。

平成 22 年度の 3 R 活動推進フォーラムからの推薦数は企業 12 件と個人 3 件の合計 13 件で、このうち企業 6 件と個人 3 件が受賞となった。

当フォーラムからの受賞者は以下の通り（カッコ内は推薦団体）。

○ 3 R 活動優良企業

日本コカ・コーラ株式会社（社団法人全国清涼飲料工業会）

泰和株式会社（社団法人環境生活文化機構）

日本国土開発株式会社（建設副産物リサイクル広報推進会議）

株式会社間組（建設副産物リサイクル広報推進会議）

株式会社ガイアート T・K 白岡合材工場（建設副産物リサイクル広報推進会議）

前田建設工業株式会社（建設副産物リサイクル広報推進会議）

○ 3 R 活動推進功労（個人）

吉成一（全国一般廃棄物環境整備協同組合連合会）

大坪隆治（社団法人全国廃棄物連合会）

藤野賢吉（社団法人全国地区衛生組織連合会）

(2) 表彰式と受賞者の功績

平成 22 年度循環型社会推進功労者等環境大臣表彰は 11 月 2 日に佐賀市内で開催された第 5 回 3 R 推進全国大会で表彰式が行われた（写真）。



平成22年度循環型社会形成推進功労者等環境大臣表彰受賞者一覧(循環型社会形成推進功労)

■3R活動優良企業

都道府県	ふりがな 氏名等	功績内容
北海道	どうえいしぎょうかぶしがいいしや 道栄紙業株式会社	製紙メーカーから排出される残渣物の再資源化により多目的環境資材を製品化。
北海道	かぶしがいいしやほっかいどうこうじょう サッポロビール株式会社北海道工場	工場敷地内から排出される副産物・廃棄物の再資源化に取り組み、再資源化100%を達成・継続している。
北海道	まるりいたみしやりようかぶしがいいしや 丸利伊丹車輛株式会社	自動車解体作業において独自の前処理工程を構築し、作業時に排出される廃棄物のリサイクル率の向上に取り組んでいる。
岩手県	ふじつうかぶしがいいしやいわてこうじょう 富士通セミコンダクター株式会社岩手工場	事業場から排出する廃棄物量の削減を中長期的目標を立て計画的に進め、大幅な削減を実現。
宮城県	ひがにほんかぶしがいいしや 東日本リサイクルシステムズ株式会社	廃棄物の循環利用や適正処分の向上のための技術やシステムを実用化して3Rの推進に貢献。
埼玉県	かぶしがいいしやしらかかこうざいこうじょう 株式会社ガイアートT・K白岡合材工場	埼玉県内で最も歴史のある建設廃棄物再生工場として3Rを推進するとともに、再生重油を使用しサーマルリサイクルにも寄与。
東京都	かぶしがいいしやはざまぐみ 株式会社間組(ハザマ)	解体コンクリートを現場内再利用して構造物の支持地盤を造成したり、空洞を埋めもどす技術を確立・展開。
東京都	にほんこくとかいはつかぶしがいいしや 日本国土開発株式会社	ホタテ貝殻のコンクリート用細骨材への活用(シェルコンクリートの実用化)。
東京都	たいわかぶしがいいしや 泰和株式会社	(社)環境生活文化機構運営のユニフォームリサイクルシステムにおいて、製造・販売・保守管理・回収・再生品原料提供などに取り組んでいる。
東京都	にほんかぶしがいいしや 日本コカ・コーラ株式会社	「い・ろ・は・す」天然水)520mlに国内最軽量で植物由来素材を一部使用したPETボトルを導入、消費者のエコ活動への参加を啓発。
長野県	かぶしがいいしや 株式会社キタニ	あらゆる産業廃棄物のリサイクル化のため施設設備の充実と廃棄物の適正分別による高品質の原材料化に積極的に取り組んでいる。
長野県	かぶしがいいしやたけはらじゅん 株式会社竹原重建	県が推進する「産業廃棄物減量化・適正処理実践協定」、「信州リサイクル製品認定制度」に率先して取り組み廃棄物の再資源化に尽力。
岐阜県	いびがわこうぎょうかぶしがいいしや 揖斐川工業株式会社	廃ガラス・溶融スラグ・フライアッシュ・鉄鋼スラグのリサイクル事業を通し循環型社会形成に貢献。
静岡県	まるとみせいしかぶしがいいしや 丸富製紙株式会社	家庭紙製造を通じた紙パックの再利用及びゼロエミッション技術の確立により循環的利用、廃棄物削減に寄与。
京都府	かぶしがいいしや ローム株式会社	廃液の分別回収による有価物化や、薬品容器のリターナブル化等に努め、再資源化率99%以上を6年間達成している。
鳥取県	ゆうげんがいいしやあかさきせいそう 有限会社赤碕清掃	バイオマス燃料の利用推進や間伐材等を活用した木質ペレットの製造販売を行い、3Rを推進するとともに地球温暖化防止活動に寄与。
徳島県	かぶしがいいしやおおつかせいやくこうじょうなるとこうじょう 株式会社大塚製薬工場鳴門工場	廃棄物の再資源化を推進し、ゼロエミッションを達成。徳島県認定3Rモデル事業所として循環型社会形成推進に貢献。
福岡県	おおいさんぎょうかぶしがいいしや 大石産業株式会社	古紙を原料とした「パルプモールド」製品により、化成製品による廃棄物の発生を抑制に貢献。
佐賀県	かぶしがいいしやしましどうかい 株式会社島田商会	使用済自動車リサイクル工場において部品のリユースに努め、処理施設から発生する金属くずやプラスチックくずも素材別に分別するなど資源の有効利用に先進的に取り組んでいる。
熊本県	まえだけんせつこうぎょうかぶしがいいしやきゅうしゅうてんくまもとこう 前田建設工業株式会社九州支店熊本合同庁舎作業所	JR熊本駅周辺整備事業において、工事計画段階より環境に配慮した工事を進め、94.1%の再資源化率を達成するなど、建設工事現場における環境負荷低減活動に取り組んでいる。

■3R活動推進功勞団体

都道府県	ふりがな 氏名等	功績内容
神奈川県	ちがさきししょうてんかしれんごうかい 茅ヶ崎市商店会連合会	リターナルびん、生ごみの堆肥化、マイバックづくりを進め、商店街を中心とした循環型社会の形成を推進。
富山県	たてやまちゅうおせいかつがっこう 立山中央生活学校	ボランティアによるリサイクル活動をはじめ、その他の3R活動や美化活動に取り組んでいる。
石川県	ななおし みどりがおほまちないかい 七尾市緑ヶ丘町内会みどり会	長年に亘り、廃棄物の細分別・リサイクル運動を推進、また、リサイクルに関する研鑽を積むなど循環型社会形成への模範的な地域づくりに貢献。
岐阜県	とくてい ひ え いりかつどうほうじんかんきょぎょうかい すず かいぎ ふ 会岐阜	長年に亘り、家庭から出る「生ごみ」の減量・資源化の市民啓発を行い循環型社会の形成に寄与。
愛知県	とうかいし うんどうし みん かい 東海市リサイクル運動市民の会	30年間に亘り、家庭における不用品の活用を図る市民バザーや資源回収に先進的・継続的に取り組んでいる。
滋賀県	しが こうにゅう 滋賀グリーン購入ネットワーク	企業、行政、消費者団体等による「グリーン購入」の実践活動、普及啓発活動などに取り組み、「循環型社会」の構築に貢献。
滋賀県	ごみを減らそうプロジェクト	家庭ごみの減量を進めるため、市民対象の出前講座の実施、また行政と連携したレジ袋削減に向けた仕組みづくりに取り組んでいる。
徳島県	かいふぐん ふくちゅうりょうかすいしんじつこういんかい 海部郡レジ袋有料化推進実行委員会	2007年10月に「地域主導型」により郡内154店舗で県内初のレジ袋有料化をスタートさせ、マイバック持参率90%を維持している。
福岡県	かんきょがくしゅう かい 環境学習サポーターの会	リサイクル体験などを通して、地域における環境活動への機運の醸成を図り、3R活動の普及を推進。

■3R活動推進功勞個人

都道府県	ふりがな 氏名等	功績内容
岩手県	みうら もとむ 三浦 求	行政等関係者と協議し、廃棄物のセメント原料としての受入処理体制の整備や地域の再利用ごみの収集を指導・実行してきた。
栃木県	よしなり はじめ 吉成 一	廃棄物の発生抑制・減量・リサイクルなど循環型社会構築に向けた啓発活動に貢献。
埼玉県	ねぎし ふみお 根岸 文夫	多年に亘り、環境衛生推進委員として活躍。特に資源ごみ分別収集を地域に根付かせ、本庄市における3R推進に貢献。
岐阜県	まつだ よしあき 松田 良明	建設廃棄物の3R推進並びに循環型社会形成に向けた啓発活動及び組合員指導に尽力。
愛知県	ふじの けんきち 藤野 賢吉	名古屋市のレジ袋有料化の推進を提案し、2年度で全16区に広げる等、ごみの発生抑制に貢献。
鳥取県	きぬがわ ますひろ 衣川 益弘	鳥取県版環境管理システムに貢献及びグリーン購入とっとりネットを設立し、グリーン購入の推進に貢献するなど循環型社会形成の推進に貢献。
福岡県	おおつぼ たかはる 大坪 隆治	(社)福岡県産業廃棄物協会役員として排出事業者や産業廃棄物処理業者等に対し、3Rの啓発普及活動を永きにわたり推進。

循環型社会形成推進功労者等環境大臣表彰実施要領（抄）

I 目的

本制度は、総物質投入量・資源採取量・廃棄物等発生量・エネルギー消費量の抑制（リデュース）、再使用（リユース）、再生利用（リサイクル）、熱回収（エネルギーリカバリー）の適切な推進、廃棄物の収集運搬・処分事業、浄化槽の設置・保守点検・清掃及び製造等の事業、ねずみ・衛生害虫等の防除及び清掃等による生活環境の改善、廃棄物処理技術に関する研究等に顕著な功績があった個人、企業、団体又は地区を表彰し、その功績をたたえ、もって循環型社会の形成、廃棄物の減量その他その適正な処理の確保、浄化槽によるし尿及び雑排水の適正な処理の推進その他生活環境の保全に資することを目的とする。

II 表彰の対象

次の1から6までのいずれかに該当する個人、企業、団体又は地区を表彰の対象とする。

ただし、春秋叙勲による勲章受章者、環境衛生事業功労者厚生労働大臣表彰、生活環境改善事業功労者等環境大臣表彰を受けた者（地区）を除く。

1 循環型社会形成推進功労者

先駆的又は独創的な取組により、循環型社会の形成について顕著な成果を上げている個人、企業又は団体であって、次のいずれかに該当するもの。

（1） 3 R活動推進功労（個人）

廃棄物等の発生抑制及び循環的な利用に関する具体的活動又は普及啓発活動を展開し、これらの活動の推進に熱意と識見を有する者。

ただし、これらの活動を廃棄物の収集運搬・処分事業として行う者を除く。

（2） 3 R活動推進功労（団体）

廃棄物等の発生抑制及び循環的な利用に関する具体的活動又は普及啓発活動を目的とする団体であって、これらの活動を継続的かつ着実に推進してきたもの。

ただし、公益法人（社団法人、財団法人）、営利を目的とする団体及び宗教上の教義を広める活動を行う団体を除く。

（3） 3 R活動優良企業（企業）

廃棄物等の発生抑制、循環的な利用及び適正処分を実現した企業であって、次のいずれかに該当するもの。

イ その工場又は事業所等の事業に係る拠点において、当該事業活動に伴う廃棄物等の大幅な発生抑制又は循環的な利用の大幅な拡大を実現した企業であって、その取組が将来的にも持続し得るもの。

ロ その製品等について、廃棄物等としての相当程度の発生抑制、循環的な利用の相当程度の拡大又は適正処分の飛躍的な向上を実現した企業であって、その取組が将来的にも持続し得るもの。

ハ 廃棄物等の大幅な発生抑制、循環的な利用の大幅な拡大又は適正処分の飛躍的な向上のための技術、製品又はシステムを実用化し、かつその普及を図る企業。

（略）

III 被表彰者の決定

1 被表彰者決定の手続

被表彰者（又は団体）は、都道府県又は3 R活動推進フォーラムが推薦する者（又は団体）について、別途定める表彰選考会の審査を経て環境大臣が決定する。

被表彰者の推薦については、IIに定める被表彰者の功績の区分ごとに別紙様式1から8により、別途定める推薦者数の範囲内で毎年7月1日まで（平成18年度に限り8月1日まで）に大臣あて行うものとする。

2 表彰の方法

表彰の方法は、被表彰者の功績の区分別に表彰状を授与して行うものとし、その時期及び場所は、別途、被表彰者に通知するものとする。

4. 3R推進地方大会後援等の協力

地方環境事務所が中心となって開催する3R推進地方大会に後援等の協力を行った。

(1) 3R推進北海道大会 2010(北海道地方環境事務所)

- 日程 平成22年10月17日(日) 10:00~17:00
- 会場 サッポロファクトリー (ファクトリールーム・アトリウム) (札幌市中央区北2条東4)
- 内容 講演会・トーク、3R体験コーナー、3Rわくわく講座、3R推進パネル展示コーナー



トークセッション

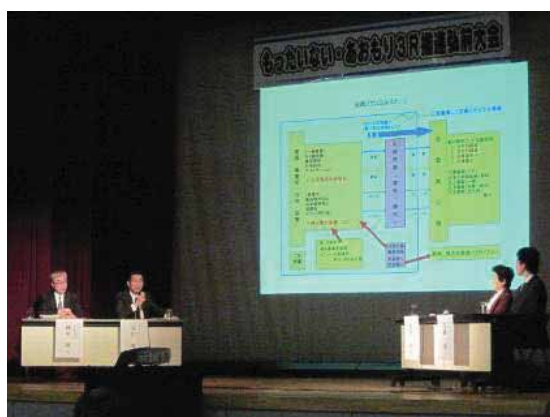


3R体験コーナー

(2) 3R推進東北(東北)大会

「もったいない・青森3R推進弘前大会」(東北地方環境事務所)

- 日程 平成22年年11月16日(土) 9:30~17:00
- 会場 弘前市総合学習センター (青森県弘前市)
- 内容 3Rトークショー、パネルディスカッション、3Rトーク&スペシャルライブ、エコ科学パフォーマンス、3Rのまなびや、エコクッキング、エコキッズになあれ！電気自動車無料試乗会



パネルディスカッション



エコ科学パフォーマンス

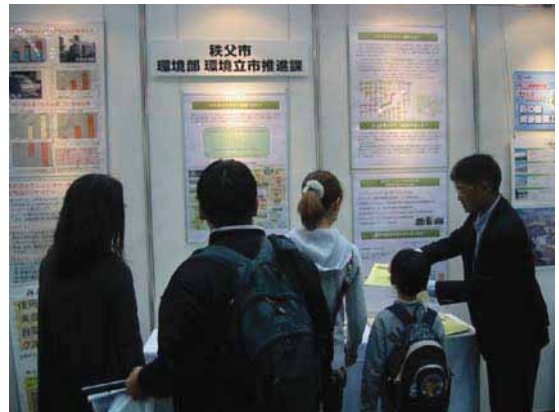
(3) 第5回3R推進関東大会inさいたま(関東地方環境事務所)

- 日程 平成22年10月23日(土)~24日(日)の2日間
- 会場 さいたまスーパーアリーナ (埼玉県さいたま市中央区新都心8)
- 内容 ステージイベント(童謡ジャグバンド「少年山賊団」ライブ、ドリーム博士のエコロ

ジーマジックショー)、ブースイベント (学習ゲーム、ワークショップ、展示、工作教室、クイズラリー)



工作教室



パネル展示

(4) 3R推進中部地方大会(中部地方環境事務所)

- 日程 平成 22 年 10 月 2 日(土)～3 日(日)
- 会場 大型ショッピングモール「マーさ 21」内マーサスクエア(岐阜市内)
長良川球技メドウ
- 内容 3 Rに関するステージイベント、3 Rに係る取組内容の展示
プロサッカーチームとのタイアップイベント「3 R推進キャンペーンマッチ」



ステージイベント



展示ブース

(5) 3R推進近畿ブロック大会(近畿地方環境事務所)

- L I V E 3 R (リヴ スリーアール) ! キャンペーン」
ロゴマーク作成、専用ウェブサイト開設
- FM802 とのタイアップ
番組内パブリシティを活用した告知
リユースカップ導入による実践体験など
- 活動団体の支援
- 公共交通機関を利用したキャンペーン活動
- イベント参加によるキャンペーン活動



FM802 スタッフとのエコ会議



リユースカップ

(6) 3R推進中国四国地方大会(中国四国地方環境事務所)

1) 鳥取県との共催事業

- 日程 平成 22 年 10 月 24 日 (日)
- 会場 どらドラパーク米子東山補助グラウンド
- 内容 ステージイベント、体験ゾーン

2) 倉敷市との共催事業

- 日程 平成 22 年 10 月 10 日
- 会場 倉敷市児島リサイクル推進センター多目的広場
- 内容 ステージイベント、3 R 推進コーナー

3) RSK夢フェスタ in コンベックス岡山 2010 への参加

- 日程 平成 22 年 11 月 13 日 (土) ~14 日 (日)
- 会場 コンベックス岡山
- 内容 エコふろしき教室

4) エコまつり“環ッハッハ in よしじま 2010”への参加

- 日程 平成 22 年 10 月 10 日 (日)
- 会場 広島市環境局中工場
- 内容 3 R に関するワークショップなど



ステージイベント



ふろしき教室

(7)3R推進四国地方大会(中国四国地方環境事務所高松事務所)

- 日程 平成22年10月23日(土)～24日(日)
- 会場 ひろめ市場(よさこい市場)(高知市)
- 内容 ステージイベント(3Rコンサートなど)
ブースイベント(かえっこバザール&オークション、3R体験講座、環境書ブース等)



ステージイベント



かえっこバザール

(8)3R推進九州ブロック大会 in 佐賀

- 日程 平成22年11月12日(金)～14日(日)
- 会場 かごしま県民交流センター
- 内容 リユースびん推進シンポジウム
かごしま環境フェアでの展示イベント



シンポジウム



展示ブース

5. 環境にやさしい買い物キャンペーン

環境省、経済産業省と3R活動推進フォーラムは10月1日～31日の期間、「平成22年度環境にやさしい買い物キャンペーン」を共同実施した。

キャンペーンの実施に当たっては、ポスターデザイン3種と統一デザインの電子データが作成され、参加都道府県及び流通事業者に送付された。参加自治体は46都道府県、流通事業者は53社45,599店舗となった。

当フォーラムでは、同キャンペーンに併せて、マイバッグの持参を啓発するためのポスターデータを作成し、希望者に配布した。

(1)趣旨

環境書の趣旨書を一部抜粋して以下に示す。

○環境省趣旨書（一部抜粋）

平成22年8月6日
環境省大臣官房・廃棄物リサイクル対策部
企画課循環型社会推進室

平成22年度『環境にやさしい買い物キャンペーン』趣旨書

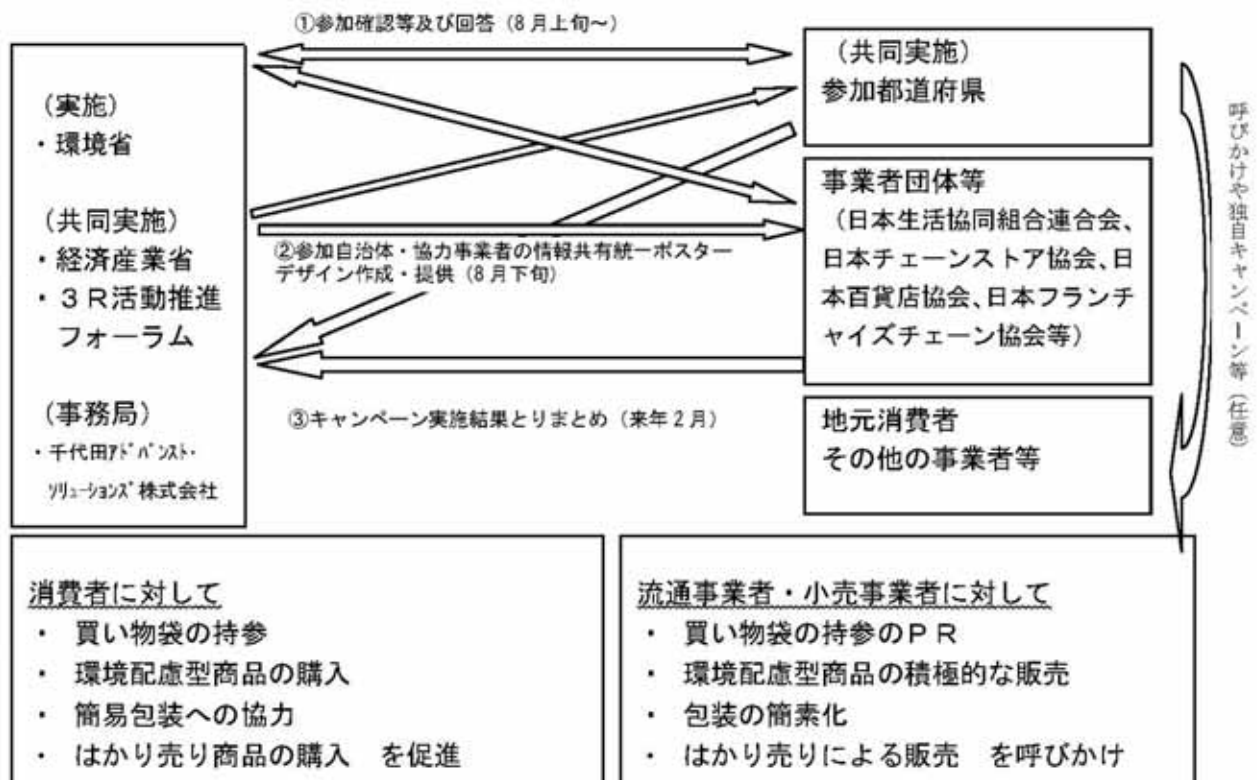
【目 的】

循環型社会形成推進基本法(平成12年法律第110号)に基づく第2次循環型社会形成推進基本計画(平成20年3月閣議決定。以下「循環基本計画」という。)において、「循環型社会の構築には国民一人一人に循環に配慮した持続可能なライフスタイルへの変革が重要」であり、それを実現するための国の取組として、地方公共団体等の各関係主体と連携を図りながら環境教育等を総合的に推進することとされております。

また、平成22年3月に閣議報告がなされた循環基本計画の進捗状況の第2回点検結果では、循環基本計画の取組指標に関する目標「循環型社会形成に向けた意識・行動の変化(※)」について、ごみ問題への意識については、「ごみ問題に関心がある」との回答率は82.1%と高いレベルにあるものの、「使い捨て製品を買わない」、「リサイクル製品を積極的に購入している」といった具体的行動については低い回答率のものも見られ、国民の高い意識を実際の行動につなげるため、消費の実態をより一層把握した上での行動につながる情報発信も引き続き重要とされたところです。

これらを踏まえ、消費者、事業者（主として流通業）、行政、消費者団体、NPO等の連携による地域活動を推進し、国民に環境に配慮した消費行動を促すことにより、地域レベルでの循環型社会の形成を図るため、本年度も引き続き「環境にやさしい買い物キャンペーン」を実施することとします。

【実施体制】



【実施期間】

平成22年10月1日～平成22年10月31日

【事業者等の実施内容】

貴社のご判断により、以下の例にならい、それぞれの店舗においてご協力いただけるものを実践して頂きます。

(例)

- 消費者に対し、「買い物袋の持参」、「環境配慮型商品の購入」、「簡易包装への協力」、「リターナブル容器、はかり売り商品の購入」等について、以下のような方法で呼びかけ
 - ・ 貴社の広報媒体やチラシ(*)、店内放送、レジでの呼びかけ
 - ・ 買い物袋持参者へのスタンプ押印や特典の実施 等
- ※内閣府作成のポスターデザイン・統一デザインを是非ご活用下さい (添付資料3 参加申込書内2項参照)
- 環境配慮型商品コーナーの設置や環境配慮型商品の特売等、環境配慮型商品の積極的な販売
 - 包装の簡素化
 - はかり売り等による販売
 - その他、本キャンペーンの目的にかなった各事業者独自の取組み

【本キャンペーン参加事業者の消費者への周知】

国や自治体の広報により、参加事業者名と、参加店舗数についてご紹介させていただきます。

(2)ポスターデザイン及び統一デザイン

○ポスターデザイン



○統一デザイン

コマメに買い物袋を持ち歩きましょう。



包装はできるだけ
少ないものを選びましょう。



長く使えるものを選びましょう。



容器は再使用できるもの
を選びましょう。



資源やエネルギーを
浪費しないものを選びましょう。



再生品を選びましょう。



(3) 参加都道府県

平成22年度『環境にやさしい買い物キャンペーン』参加都道府県一覧

都道府県	キャンペーン名称	実施主体名
1 北海道	3R推進キャンペーン	北海道
2 青森県	レジ袋削減キャンペーン	青森県
3 岩手県	環境にやさしい買い物キャンペーン	岩手県
4 宮城県	マイ・バッグ・キャンペーン	宮城県
5 秋田県	レジ袋削減・マイバック推進運動	秋田県
6 山形県	環境にやさしい買い物キャンペーン	ごみゼロやまがた推進県民会議
7 福島県	環境にやさしい買い物推進キャンペーン	福島県
8 茨城県	レジ袋削減運動	茨城県、環境保全茨城県民会議、県内市町村
9 栃木県	マイ・バッグ・キャンペーン	栃木県
10 群馬県	ストップ温暖化！県民アクション	群馬県
11 埼玉県	マイバッグ・キャンペーン	埼玉県、県下の市町村
12 千葉県	ちばレジエコキャンペーン	千葉県
13 東京都	環境にやさしい買い物キャンペーン	東京都、都内区市町村
14 神奈川県	マイバッグキャンペーン	神奈川県
15 新潟県	3Rキャンペーン	新潟県、環境にやさしい買い物運動実行委員会
16 富山県	環境にやさしい買い物キャンペーン	富山県
17 石川県	環境にやさしい買い物キャンペーン	石川県、市町
18 福井県	環境にやさしい買い物キャンペーン	環境ふくい推進協議会
19 山梨県	環境にやさしい買い物キャンペーン	山梨県
20 長野県	環境にやさしい買い物キャンペーン	信州豊かな環境づくり県民会議、長野県
21 岐阜県	環境にやさしい買い物キャンペーン	岐阜県
22 静岡県	環境にやさしい買い物キャンペーン	静岡県ごみ減量・リサイクル推進委員会
23 愛知県	環境にやさしい買い物キャンペーン	愛知県
24 滋賀県	環境にやさしい買い物キャンペーン	滋賀県、買い物ごみ減量推進フォーラムしが
25 京都府	買い物でエコ！キャンペーン2010	京都グリーン購入ネットワーク、京都府
26 大阪府	環境にやさしい買い物キャンペーン	豊かな環境づくり大阪府民会議、大阪府リサイクル社会推進会議、大阪府
27 兵庫県	地球環境時代！新しいライフスタイル展開キャンペーン	地球環境時代！新しいライフスタイルを展開しよう～新しいライフスタイル委員会、兵庫県
28 奈良県	環境にやさしい買い物キャンペーン	奈良県
29 和歌山県	環境にやさしい買い物キャンペーン	和歌山県
30 鳥取県	環境にやさしい買い物キャンペーン	鳥取県
31 島根県	しまねレジ袋削減キャンペーン	島根県
32 岡山県	環境にやさしい買い物キャンペーン(岡山県統一ノーレジ袋デー)	岡山県・岡山県ごみゼロ社会プロジェクト推進会議
33 広島県	「今すぐecoじゃけん広島」～広島発・ストップ地球温暖化県民運動～	広島発・ストップ地球温暖化県民運動推進会議
34 山口県	環境にやさしい買い物キャンペーン(マイバッグ持参運動)	山口県容器包装廃棄物削減推進協議会
35 徳島県	マイバッグでお買い物キャンペーン	とくしま環境県民会議、徳島県
36 香川県	買い物でエコ！キャンペーン2010	ネットワークグリーンコンシューマーかがわ
37 愛媛県	環境にやさしい買い物キャンペーン	愛媛県
38 高知県	マイバッグでお買い物キャンペーン	高知県、環境活動支援センター えこらぼ
39 福岡県	九州統一マイバッグキャンペーン	ごみと資源を考える福岡県民会議
40 佐賀県	九州統一マイバッグキャンペーン	佐賀県、各市町、佐賀県「ストップ温暖化」県民運動推進会議
41 長崎県	九州統一マイバッグキャンペーン	長崎県、ゴミゼロながさき推進会議、各市町、趣旨に賛同する事業者及び消費者
42 熊本県	九州統一マイバッグキャンペーン	熊本県、熊本県ごみゼロ推進県民会議
43 大分県	大分県マイバッグキャンペーン(九州統一マイバッグキャンペーン)	大分県、ごみゼロおおい作戦県民会議
44 宮崎県	九州統一マイバッグキャンペーン	宮崎県、宮崎県4R推進協議会
45 鹿児島県	九州統一マイバッグキャンペーン	鹿児島県
46 沖縄県	環境に優しい買い物キャンペーン	沖縄県

(4) 参加流通事業者等

平成22年度『環境にやさしい買い物キャンペーン』参加流通事業者等

企業名等 参加・賛同企業数(参加店舗数)	(一部を除き50音順)
----------------------	-------------

日本チェーンストア協会 2社(223店舗)

(株)イトーヨーカ堂

(株)ユニバース

日本百貨店協会 37社(132店舗)

(株)伊勢丹

(株)大丸松坂屋百貨店

(株)一畑百貨店

(株)高崎高島屋

(株)井上

(株)高島屋

(株)うすい百貨店

(株)高松三越

(株)岡山高島屋

(株)津松菱

(株)沖縄三越

(株)鶴屋百貨店

(株)小田急百貨店

(株)東急百貨店

(株)金沢名鉄丸越百貨店

(株)東武宇都宮百貨店

(株)岐阜高島屋

(株)東武百貨店

(株)近鉄百貨店

(株)ながの東急百貨店

(株)近鉄松下百貨店

(株)新潟三越伊勢丹

(株)京王百貨店

(株)函館丸井今井

(株)京急百貨店

(株)浜屋百貨店

(株)高知大丸

(株)阪急阪神百貨店

(株)さいか屋

(株)藤崎

(株)山陽百貨店

(株)水戸京成百貨店

(株)静岡伊勢丹

(株)ヤマトヤシキ

(株)下関大丸

(株)米子高島屋

(株)ジェイアール西日本伊勢丹

(社)日本フランチャイズチェーン協会 12社(44,787店舗)

国分グローサースチェーン(株)

(株)ファミリーマート

(株)ココストア

(株)ファミリーマート ampm事業・統合本部

(株)サークルKサンクス

(株)ポプラ

(株)スリーエフ

ミニストップ(株)

(株)セイコーマート

(株)ローソン

(株)セブンイレブン・ジャパン

(株)九九プラス

(株)デイリーヤマザキ

その他 2社(457店舗)

(株)良品計画

(株)マイカル

合計53社(45,599店舗)

(5) 3R活動推進フォーラムの取り組み

3R活動推進フォーラムは、平成22年度「環境にやさしい買い物キャンペーン」の実施について、会員に対して協力を依頼するとともに、平成21年度3R促進ポスターコンクール入賞作品をデザインしたマイバッグ持参を呼び掛けるポスターデータを3種類作成(写真)し、希望者に配布した。ポスターデータについては、自治体・団体・企業などから27件の申し込みがあった。



6. 連携・協働事業

会員団体と連携・協働してセミナーなど3Rフォーラムを開催した。

(1) 3Rフォーラムの開催

1) 地域連携リユースセミナー

○共 催 NPO法人持続可能な社会をつくる元気ネット

○テーマ 全国の地域リユース先進事例に学ぶ

○開催日 平成22年7月5日(月) 13:00~17:00

○会 場 千代田区立内幸町ホール

○内 容

①基調講演 「循環型社会とリユース政策」

環境省大臣官房廃棄物・リサイクル対策部リサイクル推進室長 上田康治氏

②活動報告

・「びんの回収システム 宮城方式の構築」

東北びん商連合会専務理事 大日方輝育氏

・「日本におけるリユースカップの取り組み」

地球人間環境フォーラムグローバルネット編集長 平野喬氏

・「衣類のリメイク」 WE21 ジャパン政策提言部会 郡司真弓氏

・「マイボトルへの飲料充填販売拠点の整備」 地域環境デザイン研究所 太田航平氏

・「九都県市マイボトルキャンペーン」

東京都環境局廃棄物対策部資源循環推進課 榊原元昭氏

○参加者 120名



2) 平成22年度廃棄物研究財団・3R活動推進フォーラム年次報告会

○共 催 財団法人 廃棄物研究財団

○開催日 平成22年9月28日(火) 13:00~17:00

○会 場 東京都江戸博物館会議室

○内 容

①特別講演

・「廃棄物・リサイクル行政の動向」

- 環境省大臣官房廃棄物・リサイクル対策部 廃棄物対策課 課長補佐 筒井 誠二氏
- ・「発生抑制を促進するために」～NPO環境文明 21 の活動から～
NPO法人環境文明 21 共同代表 藤村 コノエ氏
 - ・「廃棄物に係る省エネルギー対策について」
廃棄物研究財団 技術担当部長 藤井 重雄氏

② 調査研究概要報告

- ・「日本の 3 R 制度・技術・経験の変遷に関する研究」
廃棄物研究財団 専務理事 八木 美雄
- ・「平成 21 年度ごみ焼却施設調査」～ユーティリティー使用量及び熱利用量からの温室効果ガス排出・削減量等の整理・解析～ 廃棄物研究財団 主任研究員 西田 卓史氏

③「平成 21 年度廃棄物研究財団・3 R 活動推進フォーラム事業報告」

廃棄物研究財団 企画部長 近藤 和義氏
3 R 活動推進フォーラム 事務局長 藤本 正氏

3) 3R・循環フォーラム in 埼玉

○共 催 埼玉県

○テーマ 地域から考える 3 R ・循環型社会

○開催日 平成 22 年 10 月 18 日 (月) 13 : 00～17 : 00

○会 場 さいたま市ソニック市民ホール

○内 容

①基調講演

- ・「循環型社会の形成と地域循環圏」
環境省廃棄物・リサイクル対策部循環型社会推進室長 大森恵子氏
- ・「循環地域づくりと市民の役割」
NOP 法人持続可能な社会をつくる元気ネット理事長 崎田裕子氏

②第 1 分科会 (一般廃棄物)

(ファシリテーター) ダイナックス都市環境研究所長 山本耕平氏
(話題提供者)

- ・「宇都宮市のごみ処理の現状及び課題」
宇都宮市環境部廃棄物対策課長 釜井孝夫氏
- ・「G 3 0 の取組について」 横浜市資源循環局総務部資源政策課長 河井一広氏
- ・「京都市の循環型社会の構築に向けた取組」
京都市環境政策局循環型社会推進部循環企画課担当課長 堀 寛明氏

③第 2 分科会 (産業廃棄物)

(ファシリテーター) BUN 環境課題研修事務所主宰 長岡文明氏
(話題提供者)

- ・「2010 年廃棄物処理法改正」 佐藤泉法律事務所弁護士 佐藤 泉氏
社団法人全国産業廃棄物連合会 加藤宣行氏
- ・「廃棄物輸送会社の考える低炭素社会への対応策」
- ・「CO₂ マイナスプロジェクト」 白井エコセンター (株) 滝口千明氏

○参加者 97 名



4) 第 21 回廃棄物資源学会研究発表会企画セッション

- 共 催 一般社団法人廃棄物資源循環学会・(財) 廃棄物研究財団
- テーマ 日本の 3 R 体験を国際貢献に生かすために
- 開催日 平成 22 年 11 月 6 日 (土) 9 : 00 ~ 10 : 30
- 会 場 金沢市文化ホール 3F 第 5, 6 会議室
- 講 師 (財) 廃棄物研究財団専務理事 八木美雄氏
日本貿易振興機構アジア経済研究所研究員 小島道一氏
北九州市立大学教授 松本亨氏
(財) 廃棄物研究財団技術担当部長 藤井重雄氏
- 参加者 50 名

5) 3R・循環セミナー

- 共 催 (財) 廃棄物研究財団
- テーマ 日本の 3 R 体験～海外に何を伝えるか～
- 開催日 平成 23 年 2 月 18 日 (金) 13 : 30 ~ 16 : 00
- 会 場 都道府県会館 402 号室
- 内 容
 - ①第 1 部 研究成果発表
 - ・「日本の 3 R 体験及び移転促進に関する研究」
(財) 廃棄物研究財団専務理事 八木美雄氏
 - ・「3 R 的ごみ処理史のあれこれ 日本はどう対処してきたか」
早稲田大学客員教授 溝入 茂氏
 - ・「産業界&産業政策による 3 R の 60 年」稲村技術士事務所代表 稲村光郎氏
 - ・「リサイクル・3 R という言葉の誕生と変遷、その意義と課題」
(財) 日本環境衛生センター理事 大澤正明氏
 - ・「NGO による 3 R 体験の移転」
(株) ダイナックス都市環境研究所所長 山本耕平氏
 - ②第 2 部 パネルディスカッション
 - 司会 (財) 廃棄物研究財団専務理理事 八木美雄氏
 - パネラー 早稲田大学客員教授 溝入 茂氏
稲村技術士事務所代表 稲村光郎氏

(財) 日本環境衛生センター理事 大澤正明氏

(株) ダイナックス都市環境研究所所長 山本耕平氏

○参加者 66 名



(2)後援・協賛等の協力

フォーラム会員団体などの関連事業に後援・協賛する等連携・協力積極的に努めた。

1)後援

①第4回小・中学校における環境教育推進支援事業

スチール缶リサイクル協会主催 募集期間：平成22年6月1日～10月31日

②第8回全国大学生環境活動コンテスト

3 全国大学生環境活動コンテスト実行委員会主催

平成22年12月26日(日)～27日(月)立正大学大崎キャンパス

③2010 建設リサイクル技術発表会・技術展示会

建設副産物リサイクル広報推進会議主催 平成22年10月20日(水)

サンポート高松

④第5回容器包装3R推進フォーラム in さいたま

3R推進団体連絡会主催 平成22年10月25日(月)～26日(火)埼玉会館

⑤建設副産物リサイクル広報ポスター

建設副産物リサイクル広報推進会議主催

掲出期間：平成22年10月1日～平成23年9月30日

⑥2010 年容器包装3R 連携市民セミナーin 仙台

3R推進団体連絡会主催 仙台市共催 平成22年2月2日(火)

せんだいメディアテーク オープンスクエア

⑦かながわ 3R 祭

神奈川県環境農政局環境部資源循環課主催 平成23年3月5日(土)

みなとみらいクイーンズスクエア横浜 1F「クイーンズサークル」

2)協賛

①平成22年度「環境衛生週間」

環境省、都道府県及び市町村主唱

平成21年9月24日～10月1日(9月24日清掃の日、10月1日浄化槽の日)

②第9回「産業廃棄物と環境を考える全国大会」

(社)全国産業廃棄物連合会・(財)日本産業廃棄物処理振興センター・(財)産業廃棄物処理事業振興財団主催 平成22年11月17日(水) 富山国際会議場

③平成22年度東海三県一市グリーン購入キャンペーン

東海三県一市グリーン購入キャンペーン実行委員会主催

平成23年1月15日(土)～2月14日(月)

3)協力

①平成22年度「全国ごみ不法投棄監視ウィーク」 5月30日(日)～6月5日(土)

環境省廃棄物・リサイクル対策部適正処理・不法投棄対策室主催

②地球いきもの EXPOin もりころパーク

愛媛県環境部環境活動推進課主催 10月9日～24日の土・日

③第3回3R検定

3R検定実行委員会主催 平成23年1月9日(日)

試験会場：東北・関東・中部・北陸・京都・大阪・兵庫・九州

4)講師等派遣

①平成22年度廃棄物研究財団年次報告会講師

(財)廃棄物研究財団主催 平成22年9月28日(火) 江戸博物館

②3R検定講習会講師

3R検定実行委員会主催 平成22年11月21日(東京電力電気の資料館)、

11月27日((財)廃棄物研究財団)、12月2日((財)廃棄物研究財団)

③あしたのまち・くらしづくり全国フォーラム・「容器包装の削減」分科会講師

(財)あしたの日本を創る協会・全国生活学校連絡協議会等主催

平成22年11月16日 国立オリンピック記念青少年総合センター

④平成22年度東海3県1市グリーン購入キャンペーン説明会講師

東海3県1市グリーン購入キャンペーン実行委員会主催 平成22年12月22日

名古屋市役所

⑤3R検定試験役員

3R検定実行委員会主催 平成21年1月9日 立正大学

⑥環境教育推進支援事業審査会委員

スチール缶リサイクル協会主催

平成22年12月24日 スチール缶リサイクル協会

5)参加

散乱防止美化キャンペーン

スチール缶リサイクル協会主催

平成22年9月4日 愛媛県松山市内、平成22年11月6日 茨城県水戸市内



松山市内で



水戸市内で

7. 広報・普及事業

(1) 展示会への出展

1) エコライフ・フェア 2010

- 開催日：平成 22 年 6 月 5 日（土）～6 日（日）
- 会 場：都立代々木公園
- 来場者：69,982 人
- ブース来場者：450 人（クイズ解答者数）

2) さが環境展

- 開催日：平成 22 年 11 月 3 日（水）～11 月 7 日（日）
- 会 場：佐賀市嘉瀬川河川敷・佐賀インターナショナルバルーンフェスタ会場内
- 来場者：50,771 人



エコライフ・フェア 2011 の出展ブース

(2) インターネットを活用した情報発信

1) ホームページの刷新

当フォーラムが事務所を置く(財)廃棄物研究財団のホームページ刷新及びネットワーク再構築に伴い、平成 22 年 5 月から当フォーラムホームページを刷新し、充実を図った。

2) メルマガ「3R・廃棄物ニュース」の配信

関係省庁、都道府県、政令指定都市、会員団体等の情報を月 3 回配信した。

3) 3R活動推進フォーラム事務局通信の配信

会員向けに事務局の業務レポートを中心に、事務局通信として 8 月から 5 回配信した。

(3) 出版物の発行・配布

1) 2010 年次報告書作成

3 R 活動推進フォーラムの平成 21 年度の事業を中心に報告書を作成し、会員、都道府県等関係先に配布した。

2) 「財団・3Rだより」の発行

「財団・3Rだより」を 2010 年 7 月号、会員特集号（2010 年 12 月）、2011 年 1 月号の 3 回発行し、会員に送付した。

3) 3R先進事例集等の発行

環境省の 3 R 推進事業支援業務として作成された「3 R 先進事例集～平成 22 年度循環型社会形成推進功労者等環境大臣表彰受賞者の取り組み～」及びその概要版を都道府県・政令市・会員等に送付した。



(4)新聞・雑誌等における記事・広告掲載等

1)ラジオ放送

エフエム愛知 平成 22 年 9 月 1 日 14:10～14:15 Let's エコメンド ON AIR
3 R についての電話インタビューに対応

2)記事

①環境新聞 平成 22 年 10 月 27 日 12 面 第 5 回 3R 推進全国大会特集

②ウェスト・ マネジメント

平成 22 年 5 月 25 日 3 面 八木専任理事インタビュー

平成 22 年 10 月 25 日 4 面 第 5 回 3R 推進全国大会特集

③月刊廃棄物 平成 22 年 9 月号 「リユースで地域の仕組みづくりを」 3 ページ掲載

平成 22 年 11 月号 64 ページ「3 R・循環フォーラム in 埼玉」

④環境情報 平成 23 年 1 月 1 日 杉戸副会長年頭所感

3)広告

①環境新聞 平成 22 年 10 月 27 日 12 面記事下 5 段 1/2

平成 23 年 1 月 1 日名刺広告

②ウェスト・ マネジメント

平成 22 年 5 月 25 日 3 面記事下 5 段 1/2

平成 22 年 10 月 25 日 4 面記事下集合広告

(5)ガイドラインに沿ったRマーク表示の普及推進

3 R 活動推進フォーラムでは、前身のごみ減量化推進国民会議が平成 7 年 6 月設定した再生紙使用マーク（R マーク）について、平成 20 年 1 月に環境省が策定した環境表示ガイドラインに則った適正な R マークの表示方法等の周知を図った。

1)ホームページからのダウンロードサービスの提供

当フォーラムのホームページで R マークの使用に当たり、環境表示ガイドラインに則った適正な R マークの表示方法について掲載し、周知を図るとともに、R マークのロゴ等をダウンロードできるようにしている。



古紙パルプ配合率100%再生紙を使用

2)平成 22 年度東海 3 県 1 市グリーン購入キャンペーン説明会で説明

平成 22 年 12 月 22 日に名古屋市役所で行われた東海 3 県 1 市グリーン購入キャンペーン実行委員会主催のキャンペーン説明会において、R マークについて説明した。

この製品は、古紙パルプ配合率 100% の再生紙を使用しています。このマークは、3 R 活動推進フォーラムが定めた表示方法に則って自主的に表示しています。

3)展示会でのパネル展示

「エコ・ライフフェア 2010」及び「さが環境展」（いずれも前掲）で R マークのパネルを展示した。

4)問い合わせに対応

Rマークについて、掲載方法や掲載物等に関する電話などでの問い合わせや、教材などへの掲載方法についての問い合わせなどに対応した。

8. 会員サービスの充実

(1) 情報の発信・共有化

1) 「財団・3Rだより」会員特集号の発行

「財団・3Rだより」会員特集号を12月に発行し、自治体会員の取り組み、民間会員の紹介広告（無料）を掲載した。

2) 会員のイベント情報等をメルマガで配信

月3回配信しているメルマガ「3R・廃棄物ニュース」に会員のイベント情報等を毎回掲載した。

3) 3R活動推進フォーラム事務局通信の配信

8月から5回、事業の進捗状況や事務局の状況を会員に報告する事務局通信をメール配信した。

4) ホームページに会員ページを設置

5月からスタートした新しいホームページに会員ページを設置して、会員向け情報を掲載した。

(2) 出版物の配布（前掲）

「財団・3Rだより」、2010年次報告書、3R先進事例集等の出版物を会員に配布した。

(3) 3Rグッズ等の配布

1) 2011年カレンダーの配布

環境省と3R活動推進フォーラムが作成した平成22年度3R促進ポスターコンクール最優秀作品をデザインした2011年のカレンダー（A1判、写真左）を無料配布した。

2) 環境にやさしい買い物キャンペーン用ポスターデータの配布

平成21年度3R促進ポスターコンクール入賞作品をデザインしたマイ・バッグ・キャンペーン用ポスター3種のデータを作成、10月の3R推進月間を中心に希望者に無料で配布した。



9. 調査研究の実施

(1) 「アジア諸国等への日本の3R体験の移転促進に関する研究」への協力

アジア諸国等の経済レベルに見合った日本の3R体験情報の提供を目指し、日本における昭和30年代以降の高度経済成長から現在に至るまでの3Rに係る制度・技術・経験を時系列的に明らかにするために(財)廃棄物研究財団が実施した「アジア諸国等への日本の3R体験の移転促進に関する研究」に協力した。

(2) 3R・廃棄物の電子契約のあり方研究への協力

廃棄物処理・リサイクル等の委託契約を電子化することの有効性や課題について検証する(財)廃棄物研究財団の「3R・廃棄物の電子契約のあり方研究」に協力した。

3R活動推進フォーラム事務局案内図

Forum to promote 3Rs activities(3Rs Promotion Forum)

〒130-0026 東京都墨田区両国 3-25-5

J E I 両国ビル 8F (財)廃棄物研究財団内

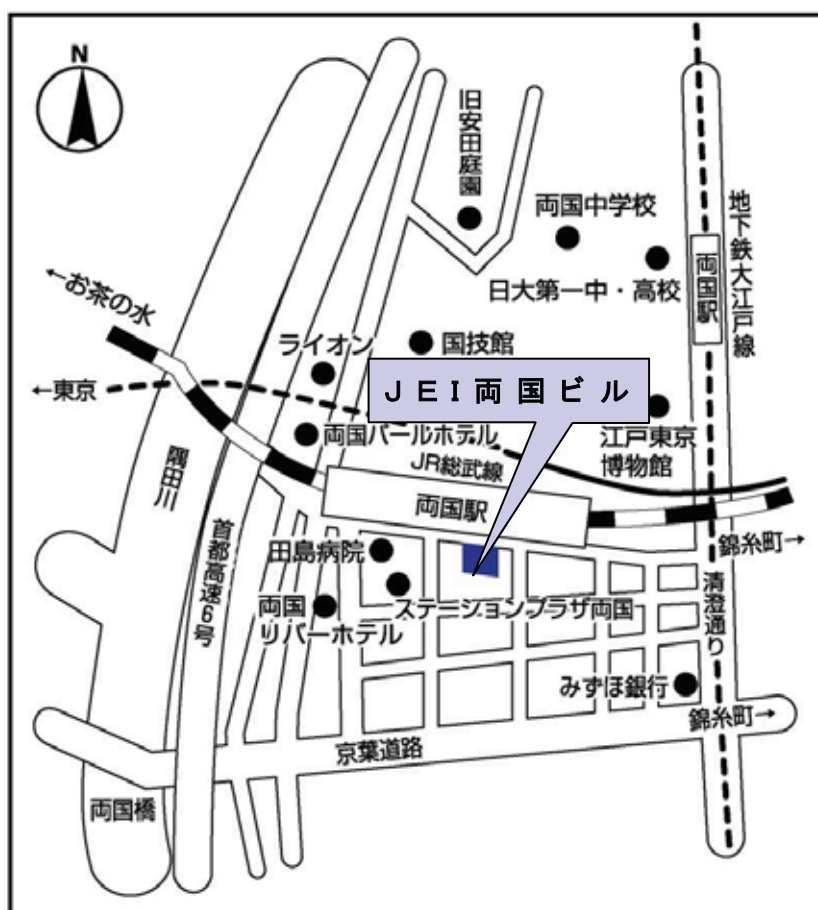
Secretariat of the 3Rs Promotion Forum

3-25-5 Ryougoku, Sumida-ku, Tokyo, 130-0026, Japan

8th floor, J E I Ryougoku Building

TEL 03-5638-7162 FAX 03-5638-7164

URL <http://3r-forum.jp/>



JR 両国駅東口改札前 徒歩 1 分

都営大江戸線 両国駅 A4 出口 徒歩 5 分

編集後記

○この年次報告書は、平成 22 年度の事業報告に加えて、今年度開催際された第 6 回理事会・総会の内容まで掲載していますが、2008 年次報告書を最初に作成して、今回が 4 回目になります。1 年間の事業をまとめてみると、改めて様々なことに取り組んできたことに感慨を覚えます。これまでの取り組みが、少しでもわが国の 3 R の推進に寄与できていることを念じる次第です。これまで、ご協力ならびにご支援いただいている環境省、会員の皆様に感謝申し上げます。(M)

○報告書を作成してみると、必ずしも事業にかかった手間や時間と年次報告書の記述量が比例していません。例えば、月 3 回配信しているメルマガ「3 R・廃棄物ニュース」は、1 回につき一人に換算すればほぼ 1 日がかりの仕事になります。年間で 36 回配信していますので、ほぼ 1 カ月分の仕事量に当たります。しかし、報告書ではわずか 2 行の記述で終わっています。「3 R・廃棄物ニュース」については、皆様から結構高い評価をいただいています、記事量と事業量や評価が一致しないのが、一生懸命汗を流してくれている担当者に申し訳ない気持ちです。(M)

○毎年 6 月になると、代々木公園ケヤキ広場で開催される「エコライフ・フェア」出展しますが、「新年度が始まった」と実感します。楽しみにブースを訪れるお馴染みさんも何人か人もいますね。今年は楽しみながら 3 R について学習してもらうパネルをリニューアルしてみました、好評でしたね。6 月 8 日、環境省、NPO 持続可能な社会をつくる元気ネット及び 3 R 活動推進フォーラムが共催する「連携でつくる循環型地域シンポジウム」を開催しました。3 R エコポイントの普及に向けて積極的に PR しようと企画したのですが、なかなか感心が高かったですね。大幅に定員を超えての申し込となり嬉しい悲鳴でした。さらに、府県さんからフォーラム・セミナーの申し入れがあることに加え、新たに企画した研修相談事業についても、2 県から申し入れがありました。秋口の開催に向けて企画調整を行っています。今後も、積極的に「連携」をキーワードに事業を展開して参ります。(H)

3R活動推進フォーラム 2011 年次報告書

発 行：3 R 活動推進フォーラム

発行年月：平成 23 年 6 月

所 在 地：〒130-0026

東京都墨田区両国 3-25-5 J E I 両国ビル 8F (財) 廃棄物研究財団内

TEL 03-5638-7162 FAX 03-5638-7164

URL：<http://3r-forum.jp/>

E-mail：info@3r-forum.jp